



## 研究キーワード

都市居住, 人間居住, 職住併用住宅, 都市保全, 生活交流空間・場所

## 張 漢賢

CHONG, Hon Shyan

環境学部長, 環境経営研究科副研究科長, 環境経営研究科環境学専攻長  
教授所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

✉ shyan@kankyo-u.ac.jp

## Profile

■主な担当科目 人間居住論, 都市居住計画, 途上国の都市発展

## ■研究者略歴

|                  |                                            |
|------------------|--------------------------------------------|
| 1992 (平成 4) 年 3月 | 京都大学工学部 建築学第二学科卒業                          |
| 1994 (平成 6) 年 3月 | 京都大学大学院工学研究科 修士課程修了(環境地球工学専攻 居住空間工学講座)     |
| 1994 (平成 6) 年 4月 | 株式会社高橋上田設計事務所 設計担当                         |
| 1996 (平成 8) 年 4月 | AKITEK WAC (マレーシア) アシスタント・アーキテクト           |
| 2000 (平成12) 年11月 | 京都大学博士 (工学)                                |
| 2001 (平成13) 年 4月 | 鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助手                     |
| 2005 (平成17) 年 4月 | 鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助教授                    |
| 2006 (平成18) 年10月 | 鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻助教授                |
| 2012 (平成24) 年 4月 | 鳥取環境大学環境学部環境学科准教授                          |
| 2013 (平成25) 年 4月 | 鳥取環境大学環境学部環境学科教授・大学院情報学研究科環境情報学専攻教授        |
| 2015 (平成27) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授・大学院情報学研究科環境情報学専攻教授      |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻教授                  |
| 2018 (平成30) 年 4月 | 公立鳥取環境大学国際交流センター長                          |
| 2024 (令和 6) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部長, 環境経営研究科副研究科長, 環境経営研究科環境学専攻長 |

## Research

■取得学位 京都大学博士 (工学)

■専門分野 都市計画学, 都市生活空間計画, 人間居住論

■現在の研究テーマ・持続的な都市居住を可能にする都市空間, 市街地の形成・管理手法  
・アジア・ヨーロッパの都市型住宅 (ショップハウス, タウンハウス) の形成と保全  
・都市・まちの「居場所」または「サード・プレイス」について

■受賞歴 1994 (平成6) 年9月 日本建築学会優秀修士論文賞

■所属学会 日本建築学会, 日本都市計画学会, 都市住宅学会

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

・「Planning for a Better Urban Living Environment in Asia」(共著), 2000, Ashgate

## 【論文】

- ・「創造性発揮を動機づけるサードプレイス」(共著), 2024, 日本デザイン学会2024年度第5支部発表会概要集
- ・「Study on the Small Ritual Facilities on the Common Space in Southeast Asia」(共著), 2024, 14th ISAIA アジアの建築交流国際シンポジウム
- ・「アジア都市のショップハウスに関する研究 その10. マレーシア・イポー市におけるショップハウス市街地2」(共著), 2023, 日本建築学会大会学術梗概集
- ・「伝統的な居住様式に対する災害の被害・外部支援の影響—2018年ロンボク島地震の被災地バヤンを事例として」(共著), 2021, 日本建築学会計画系論文集第86巻第790号
- ・「アジア都市のショップハウスに関する研究 その9. マレーシア・イポー市におけるショップハウス市街地」(共著), 2020, 日本建築学会大会学術梗概集
- ・「カフェで運営されるこども食堂の多様な利用」(共著), 2020, 日本建築学会中国支部研究報告集第43巻
- ・「倉庫市の介護予防に向けた取り組み「O(オー)教室」の実態把握」(共著), 2019, 日本建築学会中国支部研究報告集第42巻
- ・「倉吉市白壁土蔵群周辺における「萌えおこし」によるまちづくり」(共著), 2017, 日本建築学会中国支部研究報告集第40巻
- ・「鳥取市中心市街地における街路の空間特性に関する研究」(共著), 2017, 日本建築学会中国支部研究報告集第40巻
- ・「行動観察調査からみたカフェの居方—携帯電話使用・机の種類の影響—」(共著), 2017, 日本建築学会中国支部研究報告集第40巻
- ・「マラッカ・ジョージタウン世界遺産管理の課題—ボトムアップ保存手法構築の視点から—」, 2013, 日本建築学会中国支部研究報告集第36巻
- ・「旧東京市営店舗向住宅の持続的利用に関する調査研究」(共著), 2011, 日本建築学会中国支部研究報告集第34巻
- ・「アジア都市のショップハウスに関する研究 その8. マレーシア・ジョージタウンにおける家賃統制令撤廃前後の統制家屋の維持管理の実態」, 2001, 日本建築学会大会学術講演梗概集F
- ・「シンガポールにおける歴史的ショップハウス市街地の『政府主導・民間提案型』都市保存の制度」(共著), 2001, 日本建築学会計画系論文集
- ・「マレーシア・クアラルンプールにおけるショップハウスの空間構成とその利用実態」(共著), 1999, 日本建築学会計画系論文集
- ・「マレーシアにおけるショップハウスの供給」(共著), 1998, 日本建築学会計画系論文集

## 【総説】

・「都市と建築の秩序」, 2011, 日本建築学会建築雑誌, Vol.126, No.1618

## 【報告書】

- ・「鳥取県文化芸術活動実態調査報告書」(共著), 2017, 鳥取県文化団体連合会
- ・「西スマトラ州バタン歴史地区の再生に関するワークショップ」報告書(共著), 2016, 東京文化財研究所
- ・「台北における歴史的建造物の活用: ショップハウスを中心に」, 2014, 「遺跡学」第11号, 日本遺跡学会
- ・「「パブリック」で考える歴史的市街地空間と人間の係わり方—世界遺産マラッカとジョージタウンの比較から—」, 「パブリックな存在としての遺跡・遺産, 平成24年度 遺跡等マネジメント研究集会(第2回) 報告書」, 2013, 奈良文化財研究所
- ・「鳥取市における市営住宅居住者のまちなか居住ニーズ」, 2007, 鳥取市まちなかまちづくり市民活動促進事業報告書

## ■社会貢献活動

- ・鳥取県景観アドバイザー ・新温泉町空屋等対策協議会
- ・公益財団法人鳥取童謡・おもちゃ館理事



## 研究キーワード

廃棄物, リサイクル, 重金属, レアメタル, 環境分析

## 門木 秀幸

MONKI, Hideyuki

副学部長  
准教授所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

## Profile

|                |                                     |
|----------------|-------------------------------------|
| ■主な担当科目        | 廃棄物マネジメント学, 廃棄物学入門                  |
| ■研究者略歴         |                                     |
| 1995（平成 7）年 3月 | 信州大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了              |
| 1997（平成 9）年 4月 | 鳥取県倉吉保健所（～平成11年6月）                  |
| 1999（平成11）年 7月 | 鳥取県廃棄物対策課（～平成14年3月）                 |
| 2002（平成14）年 4月 | 鳥取県衛生研究所（現鳥取県衛生環境研究所）研究員            |
| 2008（平成20）年 3月 | 鳥取大学大学院工学研究科社会開発工学専攻博士後期課程修了        |
| 2008（平成20）年 4月 | 鳥取県衛生環境研究所環境化学室研究主任                 |
| 2010（平成22）年 4月 | 鳥取県衛生環境研究所リサイクルチームチーム長              |
| 2018（平成30）年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科講師                  |
| 2018（平成30）年 7月 | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻講師           |
| 2020（令和 2）年10月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科/大学院環境経営研究科環境学専攻准教授 |

## Research

|           |                                                                                                 |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■取得学位     | 博士（工学, 鳥取大学）                                                                                    |
| ■専門分野     | 環境分析, 廃棄物・リサイクル工学                                                                               |
| ■現在の研究テーマ | ・廃棄物, リサイクル製品の分析及び安全性に関する研究<br>・レアメタル等の再資源化技術に関する研究<br>・廃棄物に含まれる有害物質管理に関する研究                    |
| ■受賞歴      | 2009年（平成21年）8月 全国環境研協議会中国・四国支部長表彰<br>2010年（平成22年）2月 全国環境研協議会会長表彰<br>2016年（平成28年）5月 廃棄物資源循環学会有功賞 |
| ■所属学会     | 廃棄物資源循環学会, 資源・素材学会, 日本分析化学会, 日本環境化学会                                                            |
| ■資格       | 二級知的財産管理技能士（管理業務）                                                                               |

## Data

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■研究等活動 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 【著書】   | ・「廃棄物関連試料の分析マニュアル」, 2015年5月, 一般社団法人廃棄物資源循環学会（共著）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 【論文】   | ・「六価クロム定量のための水酸化鉄(III)共沈法における三価クロム除去に対する水酸化鉄(III)沈殿の微細化の影響」(共著), 2023年, 分析化学, Vol.72, No.10・11, pp.425-430<br>・「焼却灰溶出液中の六価クロムの定量における水酸化鉄(III)共沈時のpHの影響」(共著), 2022年, 分析化学, Vol.71, No.12, pp.679-685<br>・「ジフェニルカルバジド吸光光度法によるばいじん溶出試験でのクロム(VI)分析における妨害除去法の検討」(共著), 2017年, 分析化学, Vol.66, No.9, pp. 693-698<br>・「Determination of lead by stripping voltammetry with a disposable cartridge for quality control of municipal solid waste molten slag」(共著), 2011年, Microchemical Journal, Vol.97, pp.220-224 |
| 【技術報文】 | ・「産業廃棄物に含まれる六価クロムの検定方法の改正と留意点」(単著), 2020年, 環境と測定技術, Vol.47, No.4, pp.3-6                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 【特許】   | ・「廃電子基板からの金属の回収方法」(共同発明), 特許 2014-046258<br>・「ガラスからの重金属類の分離方法」(共同発明), 特許 2013-557511<br>・「ガラスからの重金属の分離方法」(共同発明), 特許 2012-248553<br>・「フッ素除去剤, フッ素含有液の処理方法」(共同発明), 特許 2012-023795<br>・「リン酸イオン吸着剤の製造方法, リン酸イオン回収方法, リン酸肥料の製造方法, リン酸イオン吸着剤」(共同発明), 特許 2010-028938                                                                                                                                                                                                                                           |

|         |                                                                                                                  |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■社会貢献活動 |                                                                                                                  |
|         | ・産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法改正検討委員会委員<br>・廃棄物資源循環学会中国四国支部理事<br>・廃棄物資源循環学会試験・検査法研究部会幹事<br>・鳥取県西部広域行政管理組合一般廃棄物処理施設用地選定委員会委員 |

## 研究キーワード

道徳教育 特別活動 魅力ある学校づくり



前田 哲雄

MAETA, Tetsuo

特任教授

所属…環境学部 環境学科

## Profile

■ **主な担当科目** 教職論, 道徳教育の理論と指導法, 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法, 教職実践演習

■ **研究者略歴**

|               |    |                      |
|---------------|----|----------------------|
| 1979 (昭和54) 年 | 3月 | 鳥取大学教育学部小学校教員養成課程卒業  |
| 1980 (昭和55) 年 | 4月 | 鹿野町立勝谷小学校教諭          |
| 1986 (昭和61) 年 | 4月 | 青谷町立中郷小学校教諭          |
| 1995 (平成 7) 年 | 4月 | 青谷町立青谷小学校教諭          |
| 2001 (平成13) 年 | 4月 | 鳥取市立鹿野小学校教頭          |
| 2006 (平成18) 年 | 4月 | 鳥取市立青谷小学校教頭          |
| 2008 (平成20) 年 | 4月 | 鳥取市立大正小学校校長          |
| 2011 (平成23) 年 | 4月 | 鳥取市立浜村小学校校長          |
| 2014 (平成26) 年 | 4月 | 鳥取市立青谷中学校校長          |
| 2017 (平成29) 年 | 4月 | 鳥取市教育センター主任教育相談員     |
| 2018 (平成30) 年 | 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授   |
| 2025 (令和 7) 年 | 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科特任教授 |

## Research

■ **取得学位** 教育学士 (鳥取大学)

■ **専門分野** 道徳教育 学校経営

■ **現在の研究テーマ** ・人物の生き方に学ぶ道徳教育  
・自主的, 自治的な活動を生かした学校経営

■ **所属学会** 日本道徳教育学会, 日本特別活動学会, 日本生活科・総合的な学習教育学会

■ **資格** 小学校普通免許1級 中学校普通免許2級数学

## Data

■ **研究等活動**

- 【著書】  
・「道徳教育を学ぶための重要項目100」(共著)、2016年、教育出版社
- 【論文】  
・「総合的な学習の時間における「在り方生き方」教育に関する一考察」、2022年、公立鳥取環境大学紀要
- 【学会発表】  
・「実践に基づく道徳授業の新しい提案」、2014年、日本道徳教育学会 (第84回大会)
- 【報告】  
・「人物の生き方に学ぶ道徳教育」、2015年、日本道徳教育学会『道徳と教育』(第333号)
- 【会報寄稿】  
・「自治会加入率の低下と道徳教育」 2025年、『日本道徳教育学会報』第85号  
・「子供たちが道徳授業に求めているもの～鳥取県道徳教育研究会のあゆみから～」2021年、『日本道徳教育学会報』第66号  
・「偉人等の「人生の転機」に焦点をあてた道徳授業の必要性」2020年、『日本道徳教育学会報』第61号  
・日本道徳教育学会 (第80回大会)「道徳授業成否の鍵は資料にあり」、2013年、『日本道徳教育学会報』第26号

■ **社会貢献活動**

- ・日本道徳教育学会評議員
- ・日本道徳教育学会鳥取県支部長
- ・鳥取県道徳教育研究会会長
- ・鳥取県教職員育成協議会委員
- ・鳥取市教育委員会教育委員
- ・鳥取県立青谷高等学校活性化を支援する会会長
- ・鳥取県立青谷高等学校学校運営協議会会長
- ・鳥取市教育委員会子育て親育ち講演会「家庭と学校の役割 ～家庭で、子どもに身につけさせたいこと～」
- ・米子市小学校教育研究会道徳部会講演会「道徳科の授業づくりで大切にしたいこと」
- ・鳥取県立米子高等学校出前授業「これからの生き方と学び方について～納得のいく生き方・働き方を～」
- ・鳥取市立河原中学校区幼小中連携職員研修会「「在り方生き方」教育のために～」
- ・鳥取市立高草中学校区小中職員研修会～自治力を育てる特別活動～
- ・鳥取市立北中学校区小中職員研修会～在り方生き方教育としての特別活動～
- ・未来への授業～学校における「在り方生き方」教育～
- ・放送大学講師～子供が求める道徳教育～

## 研究キーワード

持続性, 人工生態系, 適正技術, バイオリージョナリズム, 文明

## 荒田 鉄二

ARATA, Tetsuji

人間形成教育センター副センター長（英語副専攻担当）  
教授所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

✉ t2-arata@kankyo-u.ac.jp

## Profile

■主な担当科目 環境と倫理, 環境と文明, 環境学概論

## ■研究者略歴

|                |                                            |
|----------------|--------------------------------------------|
| 1985（昭和60）年 3月 | 千葉大学 園芸学部 環境緑地学科 卒業                        |
| 1985（昭和60）年 4月 | 株式会社 エックス都市研究所 研究員                         |
| 1992（平成 4）年 3月 | 東京農工大学 大学院 農学研究科 環境保護学専攻（修士課程）修了           |
| 1993（平成 5）年 7月 | 株式会社 環境文明研究所 主任研究員                         |
| 2003（平成15）年 4月 | NPO法人 循環共生社会システム研究所 主任研究員                  |
| 2004（平成16）年 4月 | 吉備国際大学 政策マネジメント学部（環境リスクマネジメント学科）准教授        |
| 2009（平成21）年 4月 | 鳥取環境大学環境マネジメント学科准教授                        |
| 2012（平成24）年 4月 | 鳥取環境大学環境学部環境学科准教授                          |
| 2013（平成25）年 4月 | 鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授                |
| 2015（平成27）年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授, 大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授 |
| 2016（平成28）年 4月 | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授                 |
| 2018（平成30）年10月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授, 大学院環境経営研究科環境学専攻教授      |

## Research

■取得学位 修士（農学）（東京農工大学）

■専門分野 環境哲学, 持続性学, 文明論

■現在の研究テーマ

- ・持続不可能性の根源に関する研究
- ・文明の避難場所づくりに関する研究
- ・未来世代の権利の制度化に関する研究

■所属学会 地球システム・倫理学会, 環境社会学会 ほか

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

・2012年 環境マインド養成講座 第3部（共著），2012年，環境教育センター（人間環境大学内）

## 【論文】

- ・「成長」という呪縛（単著），環境と文明, Vol.32 No.2, 2024年, NPO法人環境文明21
- ・人間にできて, AIにはできないこと（単著），環境と文明, Vol.31 No.9, 2023年, NPO法人環境文明21
- ・過剰開発：ドイツに行って考えたこと（単著），KIESS MAIL NEWS, 2020年1月, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・ローマは1日にして滅びずーガブリエルとオルテガをめぐってー（単著），KIESS MAIL NEWS, 2018年12月, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・精神を病んだ21世紀社会vs環境文明21（単著），環境と文明, Vol.26 No.11, 2018年, NPO法人環境文明21
- ・収量逡減の法則（単著），KIESS MAIL NEWS, 2018年5月, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・マインドセットを変える（単著），KIESS MAIL NEWS, 2016年, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・人と自然：橋は燃やされたージャン・アンビュルジェによる環境倫理の根拠づけ（単著），KIESS MAIL NEWS, 2016年, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・ローカリゼーションのすすめ（単著），環境と文明, Vol.24 No.2, 2016年, NPO法人環境文明21
- ・進歩と救い（単著），KIESS MAIL NEWS, 2015年, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・若者の環境意識：経済成長と地球環境問題の関係（単著），環境と文明, Vol.23 No.1, 2015年, NPO法人環境文明21
- ・生き延びるための食と農（単著），環境と文明, Vol.22 No.5, 2014年, NPO法人環境文明21
- ・成長と大きさの限界について（単著），KIESS MAIL NEWS, 2013年, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・文明の避難場所づくり（単著），環境と文明, Vol.21 No.9, 2013年, NPO法人環境文明21

## 【報告書】

- ・東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究（平成25年度環境研究総合推進費補助金研究事業）報告書（共著），2014年，鳥取環境大学
- ・日本海に面した海岸における海ごみの発生抑制と回収の促進に関する研究（平成23年度循環型社会形成推進科学研究費補助金研究）報告書（共著），2012年，鳥取環境大学

## ■社会貢献活動

委員：鳥取県森林環境保全税関連事業評価委員会委員（平成25～令和4年度）

委員：鳥取県森林環境保全税のあり方検討会（令和4年3月～10月）

委員：鳥取地方労働審議会委員（平成25～令和5年9月）

委員：鳥取県私学審議会委員（令和5年7月～）





## 研究キーワード

理科教育, ICT活用教育, 学習科学

## 千代西尾祐司

教授

CHIYONISHIO, Yuji

所属…環境学部 環境学科

## Profile

■主な担当科目 理科指導法 1. 2. 3. 4. 教育の方法と技術

## ■研究者略歴

|                  |                                    |
|------------------|------------------------------------|
| 1987 (昭和62) 年 3月 | 鳥取大学農学部農芸化学科卒業                     |
| 1989 (平成 元) 年 4月 | 倉吉市立河北中学校 教諭                       |
| 1992 (平成 4) 年 4月 | 国府町立国府中学校 教諭                       |
| 1995 (平成 7) 年 4月 | 河原町立河原中学校 教諭                       |
| 2001 (平成13) 年 4月 | 鳥取大学へ研修派遣                          |
| 2002 (平成14) 年 4月 | 鳥取県教育センター 指導主事・研修主事                |
| 2007 (平成19) 年 4月 | 智頭町立智頭中学校 教諭                       |
| 2008 (平成20) 年 4月 | 鳥取県教育委員会事務局 小中学校課 兼 高等学校課 指導主事     |
| 2011 (平成23) 年 4月 | 鳥取県教育委員会事務局 高等学校課 指導主事 (平成26年3月まで) |
| 2013 (平成25) 年 4月 | 鳥取大学 客員准教授 (兼務:1日/週) (平成27年3月まで)   |
| 2014 (平成26) 年 4月 | 鳥取県教育センター 指導主事 (ICT活用教育担当)         |
| 2015 (平成27) 年 4月 | 鳥取県教育センター 教育企画研修課 課長補佐             |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 島根大学大学院 教育学研究科 (教職大学院) 教授          |
| 2021 (令和 3) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 教授                |

## Research

■取得学位 農学士 (鳥取大学)

■専門分野 理科教育, ICT活用教育, 学習科学

■現在の研究テーマ

- ・子どもたちの学びを, より豊かにするための「アクティブラーニング」の視点を取り入れた教育実践の開発
- ・GIGAスクール構想における, 一人一台端末時代に応じた授業でのICT活用
- ・天体観望におけるテクノロジー活用によって, 知識やスキルのない者でも観望を可能にする方法論の確立・テクノロジーを用いた, 新しい視点での理科教材作成
- ・ICT支援員における効果的な授業支援力の向上研究 (共同研究) など

■所属学会 日本教育経営学会, 日本天文教育普及研究会

■資格 中学校教諭1級普通免許状(理科), 高等学校教諭2級普通免許状(理科・農業)

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

・「主体的・対話的で深い学びに導く 学習科学ガイドブック」(編者), 2019年, 北大路書房

## 【論文】

- ・「理科教育における, STEAM教育教材としての電視観望技術の実践的活用 - Plate Solving技術とCMOSカメラを活用した天体観望の運用 -」(共著), 2021年, 学校教育実践研究 vol.:4 (島根大学大学院教育学研究科)
- ・「理科単元学習内での協調学習による生徒の考えの変容 -概念地図を用いた科学概念変化の見取り-」(共著), 2021年, 島根大学教育学部紀要.54巻
- ・「外国人児童生徒を有するクラスにおける「主体的, 対話的で深い学び」を指向した実践と展望 一言語情報に依存しにくい教材による協働的な学びづくり」(共著), 2020年, 学校教育実践研究 3 (島根大学大学院教育学研究科)
- ・「天体の電視観望技術を用いた教材開発 -CMOSカメラとPlate Solving技術を活用した天体観望教材-」(共著), 2019年, 学校教育実践研究 vol.:2(島根大学大学院教育学研究科)
- ・「情報モラル指導分野での「考え議論する道徳」一大学院生の出張型授業による地域貢献の取り組み」(共著), 2018年, 学校教育実践研究 vol.:1 (島根大学大学院教育学研究科)
- ・「鳥取県におけるICT活用教育推進の方向性検討について: ICT活用教育推進協議会の提言と推進ビジョンの策定」(共著), 2015年, 鳥取大学教育研究論集 5
- ・「教養教育実践を通じた主体的・自立的学習者の育成と評価: 学習科学を学ぶことでのメタ認知能力育成(2)」(共著), 2015年, 鳥取大学教育研究論集 5
- ・「教養教育実践を通じた主体的・自立的学習者の育成と評価: 学習科学を学ぶことでのメタ認知能力育成」(共著), 2014年, 鳥取大学教育研究論集 4
- ・「鳥取県の高等学校教育における学習理論研修を通じた学習科学の知見の導入: 平成24年度, 平成25年度の2年間の実践を通じた結果と考察」(単著), 2014年, 鳥取大学教育研究論集 4

## 【映像教材】

・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために- 校内OJT用映像教材 (DVD), 2017年

## ■社会貢献活動

- ・「岩美町教育委員会執行事務の点検及び評価」に係る外部評価委員 (2025年度～)
- ・鳥取市こども科学館運営委員 (副委員長) (2024年度～現在)
- ・ものづくり協力会議 (鳥取大学地域価値創造研究教育機構内) 役員 (2024年度～現在)
- ・科学の甲子園及び科学の甲子園Jr 鳥取県大会指導助言 (2022年度～現在)
- ・NPO法人はなとね支援 (ゼミ生と共に支援活動) (2024年度～現在)
- ・鳥取市さじアストロパーク支援 (ゼミ生と共に支援活動) (2022年度～現在)
- ・高等学校教育と連携した学力向上事業 (鳥取県立青谷高等学校・境高等学校) (2022年度～現在)
- ・島根大学非常勤講師 (2022年～現在)
- ・日南町立日南小学校指導助言 (2022～現在)
- ・ICT支援員業務における共同研究 (これから求められるICT教育の姿) (2018年度～現在)
- ・鳥取市立桜ヶ丘中学校・米子市立加茂中学校等との指導助言及び交流多数

## 研究キーワード

細菌, 微細藻, 窒素循環, 汽水, 分子生態

## 吉永 郁生

YOSHINAGA, Ikuo

地域イノベーション研究センター長, 人間形成教育センター副センター長 (地域実践副専攻担当)  
教授所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

✉ iyoshina@kankyo-u.ac.jp

## Profile

■主な担当科目 海洋環境学概論, 自然環境保全実習・演習A, 自然環境保全概論, 水域生態学, 鳥取学

## ■研究者略歴

|                  |                                            |
|------------------|--------------------------------------------|
| 1985 (昭和60) 年 3月 | 京都大学農学部水産学科卒業                              |
| 1987 (昭和62) 年 3月 | 京都大学大学院農学研究科修士課程水産学専攻修了, 同博士後期課程進学         |
| 1990 (平成 2) 年 5月 | 同上退学, 京都大学農学部助手                            |
| 1991 (平成 3) 年 5月 | 京都大学農学博士学位取得                               |
| 1996 (平成 8) 年 9月 | 文部省在外研究員としてアメリカ合衆国オレゴン州立大学に留学 (～1997年7月)   |
| 2007 (平成19) 年 4月 | 京都大学大学院農学研究科助教                             |
| 2013 (平成25) 年 4月 | 鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授        |
| 2015 (平成27) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授      |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター長・大学院環境情報研究科環境学専攻教授 |
| 2022 (令和 4) 年 4月 | 公立鳥取環境大学人間形成教育センター副センター長                   |

## Research

■取得学位 農学博士 (京都大学)

■専門分野 海洋微生物学, 微生物生態学

## ■現在の研究テーマ

- ・二枚貝餌料環境解析のためのマイクロバイオーム手法の開発
- ・汽水域の微生物の研究
- ・海洋の微細藻・大型海藻・海草に生じる微生物被膜の研究
- ・海域の線虫類に関する研究
- ・鳥取県の水産業の振興
- ・有明海再生のための提言
- ・東日本大震災で被害を受けた沿岸海域の復興過程の微生物学的研究

## ■受賞歴

1997年 4月 水産学会奨励賞  
2008年11月 日本微生物生態学会論文賞

## ■所属学会

日本微生物生態学会, 日本水産学会, 日本農芸化学会, マリンバイオテクノロジー学会, 藻類学会,  
International Society of Microbial Ecology, American Society of Microbiology

## ■資格

第1種衛生管理者, 潜水士

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・「いのちの循環「森里海」の現場から-未来世代へのメッセージ72」(共著) 2021年, 花乱社
- ・「有明海再生への道」(共著), 2014年, 花乱社
- ・「海の環境微生物学-増補改訂版」(共著), 2011年, 恒星社厚生閣
- ・「難培養微生物研究の最新技術 II—ゲノム解析を中心とした最前線と将来展望— (Current Technology and Perspectives for Yet-uncultivated Microbial Resources)」(共著), 2010年, シーエムシー出版
- ・「微生物ってなに?—もっと知ろう!身近な生命」(共著, 2006年, 日科技連)

## 【論文】

- ・「東日本大震災後の気仙沼湾底質におけるn-ヘキササン抽出物重量法による流出油の影響評価の検討」, 2016年, 沿岸海洋研究
- ・「環境微生物の視点から見た貝殻敷設の有用性」, 2014年, 『月刊海洋』532号, 海洋出版
- ・「森里海連環の哲学から見た有明海の窮状と新たな視点としての微生物の役割」, 2013年, 『アカデミア』140号, 日本学士会
- ・「津波の海に生きる未来創生—気仙沼舞根湾調査」(共著), 2012年, 『海洋と生物』203号, 生物研究社
- ・「シャットネラ殺藻細菌の扶育場としてのバイオフィルム」, 2012年, 日本水産学会誌
- ・「環境中の窒素の循環とあらたな経路としてのアナモックス」(共著), 2012年, 日本水産学会誌
- ・「Germination fluctuation of toxic *Alexandrium tamarense* and *A. catenella* cysts and its relationship with bloom occurrences in Kesennuma Bay, Japan」(共著), 2017年, Harmful Algae.
- ・「Complete Genome Sequence of *Bradyrhizobium* sp. S23321: Insights into Symbiosis Evolution in Soil Oligotrophs」(共著), 2012年, Microb. Environ.
- ・「Detection of Anammox Activity and 16S rRNA Genes in Ravine Paddy Field Soil」(共著), 2012年, Microb. Environ.
- ・「Evidence of Exponential Growth of an Anammox Population in an Anaerobic Batch Culture」(共著), 2012年, Microb. Environ.
- ・「Diversity of anaerobic ammonium oxidation (anammox) bacteria in the sediment of a eutrophic freshwater lake」(共著), 2011年, Microb. Environ.
- ・「Algicidal bacteria in particle-associated form and in free-living form during a diatom bloom in the Seto Inland Sea, Japan」(共著), 2010年, Aquat. Microb. Ecol.
- ・「環境中のアナモックス細菌と窒素循環」(共著), 2009年, 化学と生物

## 【報告書】

- ・「自然機能を活用した流出油の分解過程の解明-人工漂着油分解過程の細菌相調査」(共著), 2003年, 生物的油濁処理技術回覧・効果的利用検討事業報告書, 財団法人漁場油濁被害救済基金

## ■社会貢献活動

- ・NPO法人「SPERA森里海・時代を拓く」 理事 (2013～)
- ・出前授業 (静岡県榛原高校, 岡山県明誠高校, 鳥取県青谷高校, 福岡県伝習館高校など) 講師 (2014～)
- ・放送大学 講師 (2019) ・シニア自然大学 (大阪市, 朝日新聞社後援)「水の講座」講師 (2018)
- ・岩美町水産業再生委員会 委員 (2014～) ・日本農芸化学会鳥取支部 参与 (2016～)
- ・環境省ETV事業審査部会委員 (2014～) ・鳥取県試験場評価委員 (2017～) ・鳥取市環境審議会委員 (2018～)

研究キーワード

心理教育, 異文化, サブカルチャー

藤田恵津子

教授

FUJITA, Etsuko

所属…環境学部 環境学科

## Profile

■主な担当科目 教育心理学, 特別支援教育の理論と実践, 生徒・進路指導論

## ■研究者略歴

|                  |                                              |
|------------------|----------------------------------------------|
| 2002 (平成14) 年 3月 | 京都教育大学大学院教育研究科学校教育専修教育臨床心理学分野修了 (教育学修士)      |
| 2002 (平成14) 年 4月 | 京都教育大学附属桃山中学校帰国生徒学級相談室 相談員 (～2011年)          |
| 2004 (平成16) 年 4月 | 大阪府・市立学校 スクールカウンセラー (～2012年)                 |
| 2004 (平成16) 年 4月 | 滋賀県警察本部生活安全部少年課大津少年サポートセンター 少年相談専門員 (～2012年) |
| 2005 (平成17) 年 4月 | 大阪府私立幼稚園連盟キンダーカウンセラー (～現在)                   |
| 2007 (平成19) 年 4月 | 神戸親和女子大学教育専攻科非常勤講師 (～2012年)                  |
| 2007 (平成19) 年 4月 | 京都教育大学教育学部非常勤講師 (～2012年)                     |
| 2012 (平成24) 年 4月 | 鳥取環境大学環境学部環境学科講師                             |
| 2013 (平成25) 年10月 | 鳥取環境大学環境学部環境学科准教授                            |
| 2015 (平成27) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授                          |
| 2024 (令和 6) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授, 人間形成教育センター教授             |

## Research

■取得学位 教育学修士 (京都教育大学)

■専門分野 臨床心理学, 教育心理学, 発達心理学

■現在の研究テーマ

- ・心理教育 (怒りのマネージメント, ストレス・マネージメント) 個別カウンセリングに加え, 日常生活に必要な心理的知識やコミュニケーション・スキルは心の健康のために有益なことである。
- ・心理臨床とサブカルチャー 「思春期の成長」, 「大人のセルフケア」としての役割をもつサブカルチャーを心理臨床的視点から考える。
- ・異文化適応 定移住による多様な文化背景をもつ子どもが増加しており, 学習や対人関係, アイデンティティ, 適応など課題も複雑化している。心理職は文化の多様性を理解した上で, 彼らのより良い発達や環境にかかわっていくことが求められている。

■所属学会 日本心理臨床学会, 日本教育心理学会

■資格 公認心理師, 臨床心理士

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・「改訂版はじめて学ぶ教育相談・生徒指導」(共著), 2024年3月, 金子書房
- ・「サブカルチャーのこころ ―オタクなカウンセラーがまじめに語ってみた」(共著), 2023年5月, 木立の文庫
- ・「学校カウンセリング入門」(共著), 2016年9月, ミネルヴァ書房

## 【論文】

- ・「『島のお墓に入りたい』と訴える女性との面接過程」, 2021年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第18号
- ・「一卵性双生児の母親面接」, 2020年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第17号
- ・「自分の人生を振り返る高齢女性の面接過程」, 2019年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第16号
- ・「自分のキャリアを模索する青年期女性の面接過程」, 2018年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第15号
- ・「摂食障害を抱える母親の面接過程」, 2017年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第14号
- ・「明確な主訴を持たない母親の面接過程」, 2016年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第13号

## ■社会貢献活動

- ・鳥取県青少年問題協議会委員
- ・大阪府私立幼稚園連盟キンダーカウンセラー
- ・大阪府臨床心理士会「こころの健康電話相談」相談員
- ・大阪弁護士会「こどもの日無料電話相談」相談員
- ・京都教育大学総合教育臨床センター教育臨床心理実践拠点公開講演会講師「多文化を生きる子どもの心理臨床的援助」



研究キーワード

花, 昆虫, 送粉

笠木 哲也

KASAGI, Tetsuya

教授

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

kasagi-t@kankyo-u.ac.jp

## Profile

■ **主な担当科目** 植物学概論, 生態学基礎, 生態学概論: 以下分担で自然環境保全概論, 鳥取学, 生物学実験, 自然環境保全実習・演習A及びB

■ **研究者略歴**

|                  |                                     |
|------------------|-------------------------------------|
| 1992 (平成 4) 年 3月 | 宇都宮大学農学部卒業                          |
| 1992 (平成 4) 年 4月 | (株)カーター・アート環境計画 (現 (株)環境・グリーンエンジニア) |
| 1997 (平成 9) 年 3月 | 北海道大学大学院地球環境科学研究科博士前期課程修了           |
| 2002 (平成14) 年 9月 | 北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程修了           |
| 2004 (平成16) 年10月 | 金沢大学地域連携推進センター研究員 (～2015年3月)        |
| 2006 (平成18) 年 4月 | 金沢大学環日本海域研究センター研究員 (～2016年3月)       |
| 2007 (平成19) 年 4月 | 石川県立総合看護専門学校非常勤講師 (～2014年9月)        |
| 2013 (平成25) 年10月 | 石川工業高等専門学校非常勤講師 (～2015年3月)          |
| 2015 (平成27) 年 4月 | 遊学館高等学校講師 (～2016年3月)                |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部准教授/大学院環境経営研究科環境学専攻准教授  |
| 2024 (令和 6) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部教授/大学院環境経営研究科環境学専攻教授    |

## Research

■ **取得学位** 博士 (地球環境科学/北海道大学)

■ **専門分野** 植物生態学, 送粉生態学, ハナバチ類

■ **現在の研究テーマ** ・植物の繁殖特性と送粉昆虫の行動の関係  
・ハナバチ類の分布と送粉ネットワーク構造

■ **所属学会** 日本生態学会, 種生物学会, 日本森林科学会

## Data

■ **研究等活動**

## 【論文】

- ・Variation in flowering plant - bee linkages following experimental restoration of satoyama paddy fields. International Proceedings of Chemical, Biological and Environmental Engineering, 2017. 102 (共著)
- ・外来植物が在来植物とハナバチ類の関係に及ぼす影響. 日本海域研究, 2015. 46: 43-48 (共著)
- ・加賀地域の標高経度に沿ったハナバチ相の比較. 2013. 日本海域研究, 44: 1-9 (共著)
- ・能登半島と佐渡島におけるハナバチ類の種組成と分布. 2012. 日本海域研究, 43: 9-17 (共著)
- ・Habitat-species responses of alpine plants to climate amelioration: comparison of fellfields and snowbed communities. Arctic, Antarctic and Alpine Research, 2011. 42: 438-448 (共著)
- ・A hybrid zone dominated by fertile F1s of two alpine shrub species, *Phyllodoce caerulea* and *Phyllodoce aleutica*, along asnowmelt gradient. Journal of Evolutionary Biology, 2008. 21: 588-597 (共著)
- ・Eight microsatellite markers for sympatric alpine shrubs, *Phyllodoce aleutica* and *P. caerulea* (Ericaceae). Molecular Ecology Notes, 2006. 6: 402-404 (共著)
- ・Interspecific pollinator movements and heterospecific incompatibility: comparisons between *Phyllodoce caerulea* and *Phyllodoce aleutica* along snowmelt gradients. Evolutionary Ecology Research, 2005. 7: 73-87 (共著)
- ・Variations in bumblebee preference and pollen limitation among neighboring populations: comparisons between *Phyllodoce caerulea* and *Phyllodoce aleutica* (Ericaceae) along snowmelt gradients. American Journal of Botany, 2003. 90: 1321-1327 (共著)

## 【研究発表】

- ・ウコギ科カクレミノにおけるシュート構造と葉形質の光環境への応答. 2019. 日本生態学会, 第66回大会 (共同)
- ・鳥取県東部瀬戸川におけるバイカモのバッチ動態と開花結実状況. 2019. 日本生態学会, 第66回大会 (共同)
- ・鳥取県東部地域のコナラ二次林における中低木層の種子散布: 自然落下と鳥散布. 2018. 日本生態学会中国四国地区会, 生物系三学会合同大会 (共同)
- ・ウコギ科カクレミノにおける個葉形質の変異と光環境の関係. 2018. 日本生態学会, 第65回大会 (共同)
- ・ニホンジカの生息密度と植生被害タイプの関係. 2018. 日本生態学会, 第65回大会 (共同)
- ・鳥取県東部地域におけるナラ枯れ後の落葉樹の分布パターン. 2017. 日本森林学会, 第128回大会 (共同)
- ・ツリフネソウにおける訪花昆虫相の違いと送粉成功の関係. 2014. 日本生態学会, 第61回大会 (共同)
- ・Comparison of flowering plant-bee linkages between two types of satoyama habitats in Kanazawa, Japan. 2013. Entomological Society of America, Entomology 2013 in Austin (共同)
- ・農地生態系において外来植物の開花が在来ハナバチ相に及ぼす影響. 2011. 応用動物昆虫学会, 第55回大会 (共同)
- ・植物群集の開花フェノロジーとハナバチ相の関係に対する外来植物の影響. 2011. 日本生態学会, 第58回大会 (共同)
- ・Biodiversity and ecosystem in Noto Peninsula: perspectives from satoyama and satoumi. 2010. The 4th International Symposium on Environment of Rim of the Japan/East sea (単独)

■ **社会貢献活動**

- ・鳥取市環境審議会/委員 (2016～)
- ・鳥取県環境審議会/委員 (2019～2022)
- ・日本生態学会中国四国地区会/会計幹事 (2018～2022)
- ・白山自然保護調査研究会/幹事 (2015～2017)





## 研究キーワード

耐震性能, 伝統技能, 伝統的構法, 木造建築, 防災

## 中治 弘行

教授

NAKAJI, Hiroyuki

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻URL <http://d4407.kankyo-u.ac.jp/>Eメール [nakaji@kankyo-u.ac.jp](mailto:nakaji@kankyo-u.ac.jp)

## Profile

## ■主な担当科目

環境物理学, 木質構造計画, 自然素材と環境, 物理学実験

## ■研究者略歴

|                  |                                            |
|------------------|--------------------------------------------|
| 1994 (平成 6) 年 3月 | 京都大学工学部建築学科卒業                              |
| 1996 (平成 8) 年 3月 | 京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了                    |
| 1999 (平成11) 年 3月 | 京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻博士後期課程単位認定退学            |
| 1999 (平成11) 年 4月 | 豊橋技術科学大学工学部建設工学系助手 (～2005年3月)              |
| 1999 (平成11) 年 7月 | 京都大学博士 (工学)                                |
| 2005 (平成17) 年 4月 | 高松工業高等専門学校建設環境工学科講師 (～2006年9月)             |
| 2006 (平成18) 年10月 | 鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助教授                    |
| 2007 (平成19) 年 4月 | 鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授 |
| 2012 (平成24) 年 4月 | 鳥取環境大学環境学部環境学科准教授                          |
| 2015 (平成27) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授, 大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授 |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授, 大学院環境経営研究科環境学専攻教授      |

## Research

## ■取得学位

京都大学博士 (工学)

## ■専門分野

木造住宅の耐震性能評価

## ■現在の研究テーマ

- ・土塗り壁の耐震性能に関する研究
- ・伝統的構法木造住宅の耐震性能向上に関する研究
- ・木造建物と地震災害・防災

## ■所属学会

日本建築学会

## ■資格

危険物取扱乙4類, 床上操作式クレーン技能講習修了証, 玉掛け技能講習修了証

## Data

## ■研究等活動

## 【学位論文】

- ・「木造建物の耐震性能評価に関する研究」(登録番号 課程工博第1860号 京都大学)

## 【著書】

- ・伝統的構法のための木造耐震設計法: 石場建てを含む木造建築物の耐震設計・耐震補強マニュアル, 伝統的構法木造建築物設計マニュアル編集委員会, 2019, 学芸出版社
- ・高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル, 高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル作成検討委員会, 2014.
- ・「東三河伝統民家耐震調査実験報告書」(共著, 2005年3月)
- ・「1995年兵庫県南部地震—木造建物の被害—」(共著, 1995年9月)

## 【論文】

- ・CLT材による木造床の面内せん断加力実験. 共著(筆頭). 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2020.
- ・土塗り大壁真壁併用壁の復元力特性に関する研究. 共著. 日本建築学会中国支部研究報告集第43巻, 2020.
- ・束で分割された土塗り垂れ壁付大断面木造軸組の耐震性能評価実験. 共著(筆頭). 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.91-98, 2019.
- ・土塗り壁の耐力を用いた土塗り小壁の骨格曲線の再評価. 共著. 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.209-214, 2019.
- ・土塗り小壁付大断面木造軸組の耐震性能評価実験. 共著(筆頭). 日本建築学会中国支部研究報告集第42巻, 2019.
- ・高さの異なる土塗り小壁付木造軸組の実大実験. 共著. 日本建築学会中国支部研究報告集第42巻, 2019.
- ・垂れ壁と腰壁で分割された無開口土塗り壁の復元力特性. 共著(筆頭). 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.23-30, 2018.
- ・土塗り壁の耐力を用いた土塗り小壁の骨格曲線評価. 共著. 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.15-22, 2018.
- ・伝統的な土塗り壁の復元力特性に関する実験的研究. 共著. 日本建築学会中国支部研究報告集第41巻, 2018.
- ・土塗り壁の復元力特性に関する実大実験と理論的検討 その1全面壁と垂れ壁腰壁の実大実験. 共著(筆頭). 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2018
- ・土塗り壁の復元力特性に関する実大実験と理論的検討 その2 設計用復元力との比較. 共著. 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2018
- ・実大実験に基づく土塗り小壁付木造軸組の復元力特性(共著). 歴史都市防災論文集Vol.11, pp.103-110, 2017.
- ・伝統構法木造軸組における土塗り小壁の復元力評価法(共著). 歴史都市防災論文集Vol.11, pp.95-102, 2017.
- ・Influence of Penetrating Tie Beams Visible from the Front of Wall on Restoring Force Characteristics of Mud-Walls(共著). 14th World Conference on Timber Engineering, 2016年8月
- ・「顕しのある土壁の復元力特性」(共著). 第9回歴史都市防災シンポジウム, 2015年7月
- ・「EVALUATION OF RESTORING FORCE CHARACTERISTICS OF MUD-WALLS CONSIDERING EFFECT OF WALL-HEIGHT FOR SEISMIC STRUCTURAL DESIGN」(共著). 13th World Conference on Timber Engineering, 2014年8月
- ・「SEISMIC PERFORMANCE OF MUD-WALLS WITH SILL BASED ON FULL-SCALE CYCLIC LOADING TESTS」(共著). 12th World Conference on Timber Engineering 2012. 2012年7月
- ・「異なる強度を持つ壁土を用いた土壁耐力の推定」(共著). 日本建築学会構造系論文集第76巻第660号, pp.347-352, 2011年2月
- ・「鳥取県の工法による土塗り壁を有する木造軸組架構の耐力特性評価」(共著). 第13回日本地震工学シンポジウム論文集, 2010年11月
- ・「SEISMIC CAPACITY EVALUATION OF MUD-PLASTERED WALLS CONSIDERING STRENGTH OF MUD」(共 著). WCTE 2010 - 11th World Conference on Timber Engineering, (2010)
- ・「壁土材料試験体の定温乾燥機による乾燥」(共著). 日本建築学会大会梗概集, A-1 分冊, pp.459-460, 2009 年
- ・「鳥取県中部地方の工法による土塗り壁の実大せん断加力実験」(共著). 日本建築学会大会梗概集, C-1 分冊, pp.257-258, 2009年
- ・「Seismic Performance Verification of Traditional Wooden House Based on Cyclic Loading Tests and Analytical Methods」(共著). WCTE 2008 - 10th World Conference on Timber Engineering, (2008)
- ・「東三河伝統構法民家の耐震性能評価のための静的繰返し加力実験」(共著). 日本建築学会構造系論文集, P133～P140, 2007年2月
- ・「The Scale Effects on the Reinforced Concrete Columns with High Strength Materials」(共著). Proceedings of The US-Japan Joint Seminar on Performance-Based Seismic Design, 2001, P297～P308, 2001年8月
- ・「木造住宅土塗り壁の実大実験による耐震性能の再検討」(共著). 日本建築学会構造系論文集 No. 515, P115～P122, 1999年1月

## ■社会貢献活動

- ・日本建築学会近畿支部木造部会幹事(2016年4月～2019年3月)
- ・日本建築学会近畿支部木造部会主査(2012年4月～2016年3月)
- ・鳥取県湯梨浜町崎崎地区町営住宅建替事業民間事業者選定委員会委員(2021年3月～)
- ・旧加悦町役場庁舎耐震改修検討委員会(2018年4月～2019年3月)
- ・高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル作成検討委員会委員(2013年4月～2014年3月)
- ・「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験」検討委員会委員(2010年4月～2013年3月)
- ・重要文化財松江城天守保存活用計画策定委員会委員(2012年3月22日～2014年3月21日)
- ・鳥取環境大学公開講座(2013年度, 2011年度ほか)

## 研究キーワード

廃棄物系バイオマス, 海面埋立地の早期安定化, リスクコミュニケーション, 生分解性プラスチック, 炭酸化处理



## 金 相烈

KIM, SangYul

教授  
サステナビリティ研究所所長所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

sykim@kankyo-u.ac.jp

## Profile

■主な担当科目 3R工学, 廃棄物処理技術, 応用化学概論

## ■研究者略歴

|                   |                                    |
|-------------------|------------------------------------|
| 1998 (平成10) 年 2月  | ソウル市立大学工学部環境工学科卒業                  |
| 2000 (平成12) 年 9月  | 北海道大学大学院工学研究科資源環境工学専攻修士課程修了        |
| 2003 (平成15) 年 9月  | 北海道大学大学院工学研究科資源環境工学専攻博士後期課程修了      |
| 2003 (平成15) 年10月  | 北海道大学大学院工学研究科COE研究員                |
| 2004 (平成16) 年 4月  | オーストリアウィーン工科大学客員研究員                |
| 2005 (平成17) 年 4月  | 北海道大学大学院工学研究科学術研究員                 |
| 2006 (平成18) 年 4月  | 北海道大学大学院工学研究科博士研究員                 |
| 2006 (平成18) 年10月  | 北海道大学大学院工学研究科特任助教                  |
| 2013 (平成25) 年 4月  | 鳥取環境大学環境学部環境学科講師                   |
| 2015 (平成27) 年 4月～ | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授                |
| 2016 (平成28) 年 4月  | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授         |
| 2021 (令和 3) 年10月  | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科/大学院環境経営研究科環境学専攻教授 |

## Research

■取得学位 博士 (工学) (北海道大学)

■専門分野 廃棄物工学

■現在の研究テーマ

- ・廃棄物系バイオマスの利活用に関する研究
- ・焼却残さの炭酸化处理による二酸化炭素の削減に関する研究
- ・廃棄物処理施設における合意形成 (リスクコミュニケーション) に関する研究
- ・しいたけ形成菌のフタ材として生分解性プラスチックの開発
- ・海面埋立地の早期安定化に関する研究

■所属学会 日本廃棄物資源循環学会, 韓国廃棄物資源循環学会

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・「環境汚染現場の修復 ～実務者のための新しいアプローチ～」(分担執筆), 2013年, オーム社
- ・「バイオマス地域循環 ～再生可能エネルギーのあるべき姿～」(分担執筆), 2012年, 環境新聞社
- ・「不法投棄のない循環型社会づくり ～不法投棄対策のアーカイブス化～」(分担執筆), 2009年, 環境新聞社

## 【論文】

- ・「コンジョイント分析に基づいた牛ふんスラリーの適正処理と資源化のための酪農家のニーズ解析:北海道東地域を対象として」(共著), 2013年, 土木学会論文集G 69巻
- ・「3次元数値シミュレーションによる修復対策後の地下水流動変化に基づく1,4-ジオキサンの拡散予測」(青森・岩手県境不法投棄事案の恒久対策を目指して) (共著), 2012年, 土木学会論文集G 68巻
- ・「Compartment model of aerobic and anaerobic biodegradation in a municipal solid waste landfill」(共著), 2007年, Waste Management & Research 第25巻

## 【国際会議】

- ・「Effect of carbonation treatment of incinerator ash on the stabilization of offshore landfill」(共著), 2018年, The 10th Asia-Pacific Landfill Symposium in 2018 (APLAS2018), Tokyo, Japan
- ・「Promoting the use of a liquid fertilizer produced from municipal waste biomass in the eastern region of Tottori Prefecture based on an oral survey of liquid fertilizer users」(共著), 2016年, The 9th Asia-Pacific Landfill Symposium in 2016 (APLAS2016), HongKong
- ・「The evaluation of a liquid fertilizer recycling system in the Eastern region of Tottori Prefecture using Input-Output Analysis」(共著), 2015年, 3R International Scientific Conference on Material Cycles and Waste Management, DaeJeon, Korea
- ・「Development of Actual Tracking Method for Prediction of Drift Routes of Marine Debris Generated from Tsunami」(共著), 2014年, 3R International Scientific Conference on Material Cycles and Waste Management and SWAPI, Kyoto, Japan
- ・「A Study on Potential Improvement of Waste Manifest Systems For Establishing a Recycling-Based Society」(共著), 2013年, Proceedings of 2013 World Congress of International Solid Waste Association (ISWA), Vienna, Austria
- ・「A Comparative Study of Industrial Waste Manifest Systems in Japan and Korea for the Promotion of Proper Recycling」(共著), 2012年, Proceedings of 2012 World Congress of International Solid Waste Association (ISWA), Florence, Italy
- ・「A New Concept of Final Disposal Systems for MSW management Considering Storage of Recyclable Materials and Disaster Waste」(共著), 2012年, The Proceedings of 7th Asian-Pacific Landfill Symposium, Bali, Indonesia

## 【報告書】

- ・「焼却排ガスの活用による都市ごみ焼却残渣の炭酸化处理による温室効果ガス削減及び海面埋立処分場の安定化促進に関する研究」(単独), 2018年2月, 廃棄物の適正処理・水処理に係る調査研究助成, 大阪湾広域臨海環境整備センター
- ・「産業廃棄物不適正処理事業における環境修復の取組から得られたもの」～四日市市大谷知・平津事案のリスクコミュニケーションを通じて～(共著), 2016年3月, 三重県環境生活部廃棄物対策局
- ・「東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究」(共著), 2013年～2014年, 環境研究総合推進費, 環境省
- ・「産業廃棄物マニフェスト情報の信頼性の確保と多面的活用策の検討」(共著), 2011年～2014年, 環境研究総合推進費, 環境省
- ・「バイオマスの利活用を基軸とした地域循環圏のモデル化と普及方策に関する研究」(共著), 2010年～2013年, 環境研究総合推進費, 環境省
- ・「不適正な最終処分システムの環境再生のための社会・技術システムの開発」(共著), 2007年～2010年, 廃棄物処理等科学研究, 環境省
- ・「三重県の環境修復技術システムの今後のあり方に関する研究」(共著), 2009年～2011年, 三重県研究委託

## ■社会貢献活動

- ・鳥取県表彰・認定等審査会(鳥取県グリーン商品認定審査会) 委員, 2022年1月～2024年1月
- ・鳥取県衛生環境研究所調査研究外部評価委員会 委員, 2020年9月～2023年9月
- ・鳥取県東部広域行政管理局 廃棄物等審議会 委員, 2019年8月～
- ・公益財団鳥取県環境管理事業センター 平議員, 2017年6月～
- ・鳥取県東部広域行政管理局 指定管理者選考委員会 委員, 2017年5月～
- ・八東川クリーンアップ大作戦実行委員会 委員, 2015年～
- ・三重県四日市市大矢知・平津事案に関する三者協議(学識経験者)(2011年3月より四者協議に変更), 2008年～



研究キーワード

脱炭素, 再生可能エネルギー

松井 徹

准教授

MATSUI, Toru

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

## Profile

■主な担当科目 環境とエネルギー, 地域エネルギーシステム論, 温暖化対策エネルギー技術特論

## ■研究者略歴

|                 |                                           |
|-----------------|-------------------------------------------|
| 1991 (平成 3) 年3月 | 東京工業大学工学部化学工学科卒業                          |
| 1991 (平成 3) 年4月 | 東京ガス株式会社入社 (～ 2025年3月)                    |
| 2011 (平成23) 年3月 | 芝浦工業大学博士号取得                               |
| 2013 (平成25) 年4月 | 一般財団法人エネルギー総合工学研究所出向 (～ 2015年3月)          |
| 2020 (令和 2) 年4月 | 公立大学法人公立鳥取環境大学環境学部非常勤講師 (～ 2022年9月)       |
| 2023 (令和 5) 年4月 | A&Tm株式会社出向 (～ 2025年3月)                    |
| 2025 (令和 7) 年4月 | 公立大学法人公立鳥取環境大学環境学部准教授, 大学院環境経営研究科環境学専攻准教授 |

## Research

■取得学位 博士 (工学) (芝浦工業大学)

■専門分野 再生可能エネルギー, バイオマスエネルギー変換

■現在の研究テーマ ・地域における再生可能エネルギー導入に関する研究

■所属学会 日本エネルギー学会

■資格 技術士 (環境部門, 衛生工学部門, 総合技術監理部門, 資源工学部門, 上下水道部門, 農業部門, 経営工学部門, 生物工学部門), 環境マネジメントシステム審査員補

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・「バイオガスの最新技術」(共著), 2008年, シーエムシー出版
- ・「海藻バイオ燃料」(共著), 2011年, シーエムシー出版
- ・「リサイクルバイオテクノロジーの最前線」(共著), 2013年, シーエムシー出版

## 【論文】

- ・Methane fermentation of a mixture of seaweed and milk at a pilot-scale plant (共著), 2010年, Journal of Bioscience and Bioengineering, Volume 110
- ・Removal of siloxane from digestion gas of sewage sludge (共著), 2010年, Bioresource Technology, Volume 101, Issue 1
- ・好熱性脱窒菌TDNO1株による実排水の脱窒処理 (共著), 2010年, 環境科学会誌23巻
- ・海藻(養殖昆布残さい)によるエネルギー生成とそのためのネットワーク構築に関する研究 (共著), 2011年, 海洋開発論文集26巻
- ・Enhanced Biogas Production from Palm Oil Mill Effluent Supplemented with Untreated Oil Palm Empty Fruit Bunch Biomass with a Change in the Microbial Community (共著), 2012年, Japan Journal of Food Engineering, Volume 13
- ・Hydrocarbon Recovery from Concentrated Algae Slurry via Thermal Pretreatment (共著), 2013年, Journal of the Japan Institute of Energy, Volume 92
- ・水生・海洋バイオマスの生産及び燃料への転換技術の開発現状と展望, 2013年, 日本エネルギー学会誌第91号
- ・省エネ型下水処理および資源循環技術下水汚泥と廃棄物の混合消化処理, 2015年, 日本エネルギー学会誌第94号

## 【講演等】

- ・国外のバイオマスの取り組みと動向, 2015年, 北海道大学エコセーフエナジー分野第7回セミナー
- ・未利用海藻のエネルギー化および利用技術について, 2015年, 第12回水産ゼロエミッション研究会
- ・バイオマスからの水素製造技術と技術開発動向, 2015年, 地球環境カレッジ第140回定例講演会
- ・海藻バイオマスのメタン発酵, 2018年, Next Urban Labo「ヨコハマ海洋環境みらい都市研究室」公開勉強会

## ■社会貢献活動

- ・ISO/TC265 (CCS) WG5 (Cross-cutting issues) Expert (2013～2015年)
- ・一般社団法人日本経済団体連合会環境安全委員会廃棄物・リサイクル部会廃棄物・リサイクルワーキンググループ委員(2018～2021年)
- ・NPO法人バイオマス北海道理事 (2019年～)
- ・コーゼネレーション白書2021制作委員会委員 (2021年)
- ・公益財団法人齋藤茂昭記念財団理事 (2022年～)
- ・公益社団法人日本技術士会資格活用委員会委員 (2023年～)



## 研究キーワード

ユニバーサルデザイン, 多様性, 癒やし, カームダウン

老田 智美

准教授

OIDA, Tomomi

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

## Profile

■主な担当科目 エコハウス計画, 居住インテリア計画, 福祉住環境計画

## ■研究者略歴

|                  |                                    |
|------------------|------------------------------------|
| 1995 (平成 7) 年 3月 | 神戸芸術工科大学芸術工学部環境デザイン学科 卒業           |
| 1998 (平成10) 年10月 | 兵庫県立 福祉のまちづくり研究所 研究員 (～2001年3月まで)  |
| 2001 (平成13) 年 3月 | 摂南大学大学院工学研究科社会開発工学専攻修士課程 修了        |
| 2001 (平成13) 年 4月 | 株式会社 NATS環境デザインネットワーク (～2006年6月まで) |
| 2006 (平成18) 年 7月 | 株式会社 NATS環境デザインネットワーク 代表取締役        |
| 2006 (平成18) 年10月 | 東京大学博士 (工学)                        |
| 2020 (令和 2) 年 4月 | 大和大学理工学部理工学科建築学専攻 講師               |
| 2024 (令和 6) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 准教授               |
| 2025 (令和 7) 年 4月 | 公立鳥取環境大学大学院 環境経営研究科環境学専攻 准教授       |

## Research

■取得学位 博士 (工学) (東京大学)

■専門分野 建築計画, 福祉のまちづくり, 建築ユニバーサルデザイン

■現在の研究テーマ  
・都市および建築空間におけるユニバーサルデザインの導入手法に関する研究  
・多様な人が利用しやすい公共トイレの整備に関する研究  
・認知症高齢者のための「癒やし環境」の創出に関する研究  
・感覚過敏をもつ学生に配慮した「居場所」としてのカームダウン空間に関する研究

■所属学会 日本建築学会, 日本福祉のまちづくり学会, 日本マンション学会

■資格 一級建築士

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・「心を癒やす環境デザイン - デンマーク・オランダの高齢者居住環境に学ぶ -」(共著), 2022年, 彰国社
- ・「ユニバーサルトイレ - 多様な利用者のための環境デザイン手法 -」(共著), 2017年, 彰国社
- ・「建築・まちづくりの夢をカタチにする力 - 建築企画事例から考える環境デザイン -」(分担執筆), 2008年, 彰国社
- ・「福祉のまちづくりキーワード事典 - ユニバーサル社会の環境デザイン -」(分担執筆), 2004年, 学芸出版社

## 【論文】

- ・「大学内の休憩空間に求める休学生と大学生の意識比較 -感覚過敏に配慮した「居場所」の創出に関する研究-」(共著), 2024年, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』
- ・「視覚障害者用トイレ誘導ラインの印象評価と効果 -視覚障害者のユニバーサルデザイントイレ環境に関する研究-」(共著), 2024年, 『日本福祉のまちづくり学会第27回全国大会概要集』
- ・「男女共用トイレに対する兄弟姉妹の有無別学生の利用者意識 -公共トイレの男女共用化の可能性に関する研究-」(共著), 2023年, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』
- ・「移動方法からみた視覚障害者の施設内トイレ利用実態 -視覚障害者のユニバーサルデザイントイレ環境に関する研究-」(共著), 2021年, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』
- ・「回想法を用いたカームダウン空間の導入による認知症高齢者の行動変化」(共著), 2020年, 『オーガナイズドセッション(超高齢長寿社会の住空間デザイン) 日本建築学会大会学術講演梗概集計画系』
- ・「Behavior changes in elderly individuals with dementia and effects before and after introducing calm down space using reminiscence」(共著), 2019年, 『The 7rd International conference in BANGKOK, International Association for Universal Design』
- ・「施設形態からみた入居者の居場所空間の利用状況 -認知症高齢者居住施設におけるBPSDに配慮したデザイン手法に関する研究-」(共著), 2019年, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』
- ・「奄美大島大和村における集会施設の利用実態 -離島におけるコミュニティ空間に関する研究-」(共著), 2019年, 『日本福祉のまちづくり学会第22回全国大会概要集』
- ・「福祉施設および大型ショッピングセンターにおける移動・検索方法からみた視覚障害者のトイレ利用実態」(共著), 2017年, 『日本建築学会計画系論文集』 No.733
- ・「The actual conditions of toilet facility usage by children in a large scale shopping center -A study regarding the universal design of public toilet facilities-」(共著), 2014年, 『The 5rd International conference in FUKUSHIMA & TOKYO, International Association for Universal Design』

## 【設計・監修等】

- ・イオンレクタウン/ユニバーサルデザイン監修, トイレ・ベビー休憩室/設計 (埼玉県)
- ・イオンモール天津津南/ユニバーサルデザイン監修 (中華人民共和国)
- ・ロッテ扶餘コンドミニウム/ユニバーサルデザイン監修, 有料キッズクラブ/設計 (大韓民国)
- ・千葉ロッテマリーンズQVCマリンフィールドUDサイン/サインデザイン, 設計 (千葉県)
- ・神戸空港旅客ターミナル UDサイン/サインデザイン, 設計, 設計監理 (兵庫県)
- ・イオンモールユニバーサルデザインガイドライン作成
- ・イオンモール (中国) ユニバーサルデザインガイドライン作成
- ・イオンタウンユニバーサルデザインガイドライン作成

## ■社会貢献活動

- ・吹田市環境影響評価審査会 委員 (2023～)
- ・神戸市シルバーカレッジ 健康ライフコース 講師 (2020～)
- ・日本規格協会 授乳室図記号に関する委員会 委員 (2017～2019)
- ・神戸婦人大学 ユニバーサルデザインコース 講師 (2002～2023)



## 研究キーワード

緑地環境, グリーンインフラ, 社会・生態・テクノロジー系, レジリエンス, 気候変動

## 加藤 禎久

准教授

KATO, Sadahisa

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻URL [https://researchmap.jp/sada\\_kato](https://researchmap.jp/sada_kato)

## Profile

■主な担当科目 グリーンデザイン, 都市の自然環境形成, 景観計画と保安全管理

## ■研究者略歴

|                  |                                                  |
|------------------|--------------------------------------------------|
| 1996 (平成 8) 年 5月 | 米国ミシガン大学自然資源・環境学部卒業                              |
| 2003 (平成15) 年 4月 | 米国ミシガン大学大学院自然資源・環境学部実務家養成修士課程修了, MLA             |
| 2010 (平成22) 年 5月 | 米国マサチューセッツ大学大学院景観建築・地域計画学科博士課程修了, Ph.D.          |
| 2011 (平成23) 年 9月 | 茨城大学地球変動適応科学研究機関 (ICAS) 共同研究員, IPCCチャプターサイエンティスト |
| 2014 (平成26) 年 3月 | 国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) リサーチ・アソシエート         |
| 2015 (平成27) 年 3月 | 茨城大学国際戦略室国際コーディネーター                              |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 岡山大学グローバル人材育成院准教授                                |
| 2021 (令和 3) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部准教授                                  |
| 2021 (令和 3) 年10月 | 公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻准教授                          |
| 2023 (令和 5) 年10月 | 鳥取大学大学院連合農学研究科 指導教員資格者 (D合)                      |

## Research

■取得学位 Ph.D. (Ecological Planning) (University of Massachusetts Amherst, USA)

■専門分野 緑地計画学, エコロジカル・プランニング, グリーンインフラ

## ■現在の研究テーマ

- ・自然の恵みを土地利用計画や社会資本整備に活用するグリーンインフラに関する研究
- ・インドネシア・バリ島における伝統的緑地の統合的機能評価に関する研究
- ・鳥取県若桜町・八頭町の農山村地域の持続可能性に関する未来シナリオ分析研究

## ■受賞歴

- 2003年 (平成15) 年5月 Landscape Architecture Alumni Award (米国ミシガン大学大学院自然資源・環境学部)
- 2003年 (平成15) 年8月 最優秀賞 (大学院共同研究部門) (米国ランドスケープアーキテクト協会)
- 2006年 (平成18) 年4月 プロフェッショナル・エンハンスメントアワード (NASA-MSU)

## ■所属学会

国際景観生態学会 (IALE), 日本造園学会, 日本景観生態学会, 日本都市計画学会, 日本建築学会

## ■資格

英検 1 級

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・「Changes in the Use of Green Spaces by Citizens Before and During the First COVID-19 Pandemic: A Big Data Analysis Using Mobile-Tracking GPS Data in Kanazawa, Japan」(共著), 2022年, 『Green Infrastructure and Climate Change Adaptation』, Springer
- ・「Green Infrastructure Planning for Asian Cities: The Planning Strategies, Guidelines, and Recommendations」, 2021年, 『Urban Biodiversity and Ecological Design for Sustainable Cities』, Springer
- ・「決定版! グリーンインフラ」(共編著), 2017年, 日経BP社

## 【論文】

- ・「Landscape metric sensitivity to grain size in rural Japan」(共著・筆頭), 2024年, 『Landscape and Ecological Engineering』 20: 285-298, DOI: 10.1007/s11355-024-00611-y
- ・「新型コロナ禍を経たバリ島プンリプラン観光村に関する調査報告: 伝統的緑地テラジャカンをめぐる社会状況の変容」(共著), 2024年, 『専修人間科学論集. 社会学篇』 14(2), 63-67
- ・「鳥取県東部におけるロードキル発生状況と生態的要因に関する考察」(共著), 2024年, 『第23回「野生生物と交通」研究発表会講演論文集』
- ・「Human Flow Dataset Reveals Changes in Citizens' Outing Behaviors including Greenspace Visits before and during the First Wave of the COVID-19 Pandemic in Kanazawa, Japan」(共著・責任), 2022年, 『International Journal of Environmental Research and Public Health』 19(14): 8728, DOI: 10.3390/ijerph19148728
- ・「人流ビッグデータで見たCOVID-19流行後のグリーンインフラや観光地利用の変化」(共著), 2022年, 『ランドスケープ研究』 85(5), 585-588
- ・「Land use management recommendations for reducing the risk of downstream flooding based on a land use change analysis and the concept of ecosystem-based disaster risk reduction」(共著・筆頭), 2021年, 『Journal of Environmental Management』, DOI: 10.1016/j.jenvman.2021.112341
- ・「ニューヨーク市BIG-Uプロジェクトにみる減災デザイン実装展開の枠組み」(共著), 2021年, 『ランドスケープ研究』 84(5), 587-590
- ・「バリ島の伝統的緑地「テラジャカン」についての研究—公共性と「かかわりの正当性」—」(共著), 2021年, 『住総研 研究論文集・実践研究報告集』第47号, 131-141
- ・「フィラデルフィア市におけるグリーンインフラ計画と実装の仕組みに関する研究」(共著), 2020年, 『ランドスケープ研究』 83(5), 673-678
- ・「地域開発における伝統的緑地(テラジャカン)の役割: バリ島プンリプラン観光村の事例」(共著), 2020年, 『専修人間科学論集. 社会学篇』第10号, 35-42

## 【報告書】

- ・「大学生が高評価を与える地方都市の河川緑道とは—鳥取市袋川の写真による印象評価—」(共著・筆頭), 2024年, 『都市計画報告集』 22(4), 691-696
- ・「マカオ内港地区における洪水被害軽減デザインの提案と対策についての考察」(共著), 2023年, 『都市計画報告集』 21(4), 368-372

## ■社会貢献活動

- ・鳥取県景観審議会 委員 (2022年1月～現在)
- ・鳥取県湯梨浜町景観審議会 委員 (2023年9月～現在)
- ・鳥取県大山町総合計画審議会 委員 (2024年7月～現在)
- ・「グリーンインフラで災害に強く緑豊かな街づくり」公立鳥取環境大学公開講座2022 (2022年12月17日)
- ・「自然のチカラで暮らしも地球も、もっと豊かに」夢ナビ (2023年6月25日)



## 研究キーワード

水産資源, 魚類の初期生態

## 太田 太郎

OHTA, Taro

副学長補佐（教育，入試，研究，地域連携・国際交流，企画・評価担当）  
准教授所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

oota-t@kankyo-u.ac.jp

## Profile

■主な担当科目 鳥取学, 麒麟の知, 漁業資源保全学, 水域生態学

## ■研究者略歴

|                   |                                                       |
|-------------------|-------------------------------------------------------|
| 1997 (平成 9) 年 3月  | 京都大学農学部水産学科卒業                                         |
| 1999 (平成11) 年 3月  | 京都大学大学院農学研究科修士課程応用生物学専攻修了                             |
| 1999 (平成11) 年 4月  | 京都大学大学院農学研究科博士後期課程応用生物学専攻進学<br>日本学術振興会特別研究員 (DC 1) 採用 |
| 2002 (平成14) 年 3月  | 京都大学大学院農学研究科博士後期課程応用生物学専攻研究指導認定                       |
| 2002 (平成14) 年 4月～ | 鳥取県職員に採用 所属：農林水産部水産振興局水産課 鳥取県栽培漁業センター                 |
| 2016 (平成28) 年 3月  | 鳥取県水産試験場 など                                           |
| 2004 (平成16) 年 3月  | 京都大学大学院農学研究課応用生物化学専攻博士課程修了 (農学博士)                     |
| 2016 (平成28) 年 4月  | 公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター特命准教授                          |
| 2019 (平成31) 年 4月  | 公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授                                 |
| 2020 (令和 2) 年 4月  | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授 兼 環境経営研究科環境学専攻准教授                 |

## Research

■取得学位 博士 (農学) (京都大学)

■専門分野 魚類生態学, 水産資源生物学, 漁業制度及び漁業法令

■現在の研究テーマ ・水産生物の資源生態 ・鳥取県における漁業制度

■所属学会 日本水産学会 ほか

■資格 潜水士, 日本さかな検定1級

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・「有明海のスズキの初期生態を探る」, 稚魚学—多様な生理生態を探る (共著), 株式会社生物学研究者, 東京, 2008, pp. 277-286
- ・「耳石による回遊履歴追跡」, スズキと生物多様性 (共著), 恒星社厚生閣, 東京, 2002, pp. 91-102.

## 【論文】

- ・鳥取県東部岩美町沿岸域および河口域に出現する魚類仔稚魚. (共著) 鳥取県立博物館研究報告 2025 : 62 1-13
- ・日本海南西部鳥取県沿岸で漁獲されるマアジの産卵期と成長. (共著) 水産技術: 2024: 1-8.
- ・鳥取県千代川水系におけるカジカ中卵型の食性. (共著) 水生動物 2024: p. AA2024-18.
- ・鳥取県千代川水系におけるカジカ種群の分布域と回遊. (共著) 水産学会誌: 2023: 89: 365-367.
- ・鳥取県沿岸海域で採集したアユ仔稚魚の耳石日周輪解析による孵化日と初期成長の推定. (共著) 水産増殖 2022: 70: 343-352.
- ・湖山池沿岸部におけるテナガエビの出現動向. (共著) 鳥取県立博物館研究報告 2022: 59 1-8
- ・鳥取砂丘海岸におけるペットボトルを指標とした海岸漂着ごみの挙動に関する気象、海象要因の解析 (共著) 公立鳥取環境大学紀要 2021: PR1-PR8.
- ・鳥取市における漁業振興にかかる諸課題の抽出. (単著) 公立鳥取環境大学紀要 2019: 16 RE31-35.
- ・水産物に関する消費者アンケート調査について. (単著) 公立鳥取環境大学紀要 2019: 16 RE37-43.
- ・Numerical simulation of the migration and distribution of diamond squid (Thysanoteuthis rhombus) in the southwest Sea of Japan. (共著) Fisheries Oceanography 2009; 19: 63-75.
- ・Tagging studies on the diamond squid (Thysanoteuthis rhombus) in the western Sea of Japan. (共著) Bulletin of the Japanese Society of Fisheries Oceanography 2008; 72: 30-36.
- ・Migration of Japanese temperate bass Lateolabrax japonicus juveniles within the Chikugo River estuary revealed by  $\delta$  13C analysis. (共著) Marine Ecology Progress series 2008; 358: 245-256.
- ・Distribution of Japanese temperate bass, Lateolabrax japonicus, eggs and pelagic larvae in Ariake Bay. (共著) Ichthyological Research 2007; 54: 367-373.
- ・稚魚期を有明海湾奥部河口域で過ごしたスズキの成長. (単著) 海洋と生物 2007; 29: 33-39.
- ・Effects of river flow on larval growth and survival of Japanese seaperch Lateolabrax japonicus (Pisces) in the Chikugo River estuary, upper Ariake Bay. (共著) Journal of Fish Biology 2006; 69: 1662-1674.
- ・有明海湾奥部の干潟汀線域に出現する仔稚魚. (共著) 魚類学雑誌 2002; 49: 109-120.
- ・筑後川河口で採集されたアリアケシラウオ仔魚の形態. (共著) 魚類学雑誌 2002; 49: 103-108.
- ・Use of otolith microanalysis to determine estuarine migrations of Japanese sea bass Lateolabrax japonicus distributed in Ariake Sea. (共著) Fish. Sci. 1998; 64: 740-743.
- ・Otolith Sr concentration analyzed by PIXE in Ariake estuary dependent sea bass juveniles. (共著) Int. J. PIXE 1997; 7: 147-151.

## ■社会貢献活動

- ・千代川河川アドバイザー会議 (国土交通省中国地方整備局) 委員 (R6～)
- ・公益財団法人 鳥取県栽培漁業協会評議員 (R6～)
- ・公益財団法人鳥取県魚の豊かな川づくり基金評議員 (R6～)
- ・鳥取県水辺の環境保全協議会 委員 (R4～)
- ・鳥取県漁業協同組合外部アドバイザー (H28～)
- ・鳥取県沖合底曳網漁業協会外部アドバイザー (H28～)

## 【講演等】

- ・公立鳥取環境大学 ジオパークサイエンスカフェ「チリメンモンスター教室」(R5年7月)
- ・公立鳥取環境大学 市民公開講座「藻場 (もば) の大切さを学ぼう」(R5年7月)
- ・市民公開シンポジウム: 有明海の生物とそれを取りまく環境の現況「遡河回遊アンチョビー: エツの生活史の可塑性」(R4年11月)
- ・第43回市民フォーラム「鳥取の海を知る」～科学的視点から健康増進問題・生態環境問題の解決へ～ 2022年10月22日 日本農芸化学会中四国支部「豊かな水域環境づくりに向けて」(R4 10月)
- ・第18回全国漁港漁場整備技術研究会「基調講演 多様で豊かな漁場環境保全のあり方について ～山陰鳥取の海を実例に～」(R1年10月)

## 【集中講義】

- 非常勤講師: 水圏・多様性生物学特論 (島根大学生物資源科学部) (R6年9月)
- 非常勤講師: 京都大学大学院農学研究科 (修士課程) 応用生物学特別講義Ⅶ (R1年6月)

研究キーワード

新規化学物質, 質量分析, ジオミクス

山本 敦史

准教授

YAMAMOTO, Atsushi

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻URL  <https://pfos.jp>E-Mail  [atyamamo@kankyo-u.ac.jp](mailto:atyamamo@kankyo-u.ac.jp)

## Profile

■主な担当科目 化学概論, 化学実験, 環境分析化学特論

## ■研究者略歴

|                 |                                       |
|-----------------|---------------------------------------|
| 1993 (平成 5) 年3月 | 鳥取県立鳥取西高等学校卒業                         |
| 1997 (平成 9) 年3月 | 九州大学理学部化学科卒業                          |
| 1999 (平成11) 年3月 | 九州大学大学院理学研究科化学専攻修了                    |
| 1999 (平成11) 年4月 | ユニチカ株式会社                              |
| 2000 (平成12) 年4月 | 大阪市立環境科学研究所                           |
| 2014 (平成26) 年3月 | 関西大学大学院理工学研究科博士課程修了, 博士 (工学)          |
| 2016 (平成28) 年4月 | 公立鳥取環境大学環境学部講師                        |
| 2018 (平成30) 年4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 大学院環境経営研究科 環境学専攻 准教授 |
| 2023 (令和 5) 年8月 | 大阪大学大学院理学研究科附属フォアフロント研究センター招へい准教授     |

## Research

■取得学位 博士 (工学) (関西大学)

■専門分野 分析化学, 質量分析

■現在の研究テーマ  
・環境中残留性汚染物質の分析, 生体影響評価  
・暮らしに身近な化学物質のリスク評価  
・食品中の栄養成分等の探索■受賞歴  
2017年 (平成29年) 5月 奨励賞 (日本質量分析学会)  
2024年 (令和 6年) 12月 学術奨励賞 (一般社団法人あにまるすまいる)

■所属学会 日本環境化学会, アメリカ化学会, 日本質量分析学会, 日本食品衛生学会, 日本分析化学会

## Data

## ■研究等活動

## 【報文・総説・解説】(2022 年以降)

- ・環境リスク物質の微量定量と液体クロマトグラフィータンデム質量分析. 日本質量分析学会誌, 72巻, 58-64 (2024), doi: 10.5702/massspec.24-133
- ・Fragmentation Consideration Using Amidoamine Oxide Homologs (共著), Mass Spectrom. 13, A0158 (2024), doi: 10.5702/massspectrometry.A0158
- ・Heat-treated and/or lysozyme-treated Enterococcus faecalis (FK-23) improves the progression of renal disease in a unilateral ischemia-, reperfusion injury rat model. (共著) J. Clin. Biochem. Nutr. 75, 78-89 (2024), doi: 10.3164/jcbn.24-29
- ・マスマスペクトルのannotation (1): 異性体のInChIとSMILES. (共著) 日本質量分析学会誌, 71巻 149-152 (2023), doi: 10.5702/massspec.S23-51
- ・Quantitation of guanidine derivatives as representative persistent and mobile organic compounds in water: Method development. (共著) Anal Bioanal Chem, 415, 1953-1965 (2023), doi: 10.1007/s00216-023-04613-x
- ・Amidoamine Oxide Surfactants as Low Molecular Weight Hydrogelators: Effect of Methylene Chain Length on Aggregate Structure and Rheological Behavior.(共著) Gels, 9, 261 (2023), doi: 10.3390/gels9030261
- ・A study of chemical substances migrated from plastic tableware to evaluate the food safety for pets. (共著) Mass Spectrometry, 12, A0119 (2023), doi: 10.5702/massspectrometry, A0119

2021 年以前含めた全体は以下に掲載

<https://www.webofscience.com/wos/author/record/C-8211-2012>

## 【学会・研究会】(2022 年以降)

- ・有機ハロゲン系環境汚染物質分析. プラズマ分光分析研究会第123回講演会 (広島市, 2024年)
- ・Quality control of non-target analysis using the same method of mass spectrometer. (共著) 25th International Mass Spectrometry Conference. (メルボルン, 2024年)
- ・Mass Spectrometry and Emerging Contaminants in Japan. Bilateral meeting between CMSS and MSSJ. (つくば, 2024年)
- ・環境データから見る難分解性有機フッ素化合物 PFASs による環境問題 これまでとこれから 大阪工研協会第48回分析展と講演会 (大阪市, 2024年)
- ・Persistent and mobile compounds (PMOCs) guanidine derivatives. Environmental Occurrence and their disinfection byproduct. (共著) アジアオセアニア質量分析学会 (韓国済州島: 2023年)
- ・GC × GC で可視化される化学反応槽としての電子たばこ (共著) 第31回環境化学討論会 (徳島: 2023年)
- ・高度化する環境分析化学データの蓄積と共有 第30回環境化学討論会 (富山: 2022年)
- ・同一測定内のデータ整合性にも着目したマスマスペクトル解析 第3回日本質量分析学会スペクトルデータ部会シンポジウム (オンライン: 2022年)

## 【教科書・学術図書】

- ・PFASの規制動向と対応技術 (共著) (技術情報協会: 2024年)
- ・質量分析活用スタンダード (共著) (羊土社: 2023年)
- ・機器分析ハンドブック 1 有機・分光分析編 (共著) (化学同人: 2020年)

## ■社会貢献活動

- ・鳥取県分析技術勉強会世話人
- ・鳥取県環境影響評価審査会委員 (2018年～)
- ・日本質量分析学会理事 (2019年～2023年, 2025年～)
- ・日本質量分析学会講習会企画委員長 (2019年～2020年)
- ・日本環境化学会評議員 (2019年～2025年)
- ・環境省環境調査研修所研修支援教材講師 (2024年～)





## 研究キーワード

下水処理, 嫌気性消化, メタン発酵, 汚泥有効利用, 高度処理

## 戸 莉 丈 仁

准教授

TOGARI, Taketo

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻URL  <https://mizukankyo-togari.amebaownd.com/> [t-togari@kankyo-u.ac.jp](mailto:t-togari@kankyo-u.ac.jp)

## Profile

■主な担当科目 水質管理学, 水質汚濁防止, 水処理技術

## ■研究者略歴

|                  |                                         |
|------------------|-----------------------------------------|
| 2001 (平成13) 年 3月 | 金沢大学工学部土木建設工学科 卒業                       |
| 2003 (平成15) 年 3月 | 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程 修了                |
| 2003 (平成15) 年 4月 | 石川県土木部河川課                               |
| 2005 (平成17) 年 4月 | 石川県北河内ダム建設事務所建設課                        |
| 2007 (平成19) 年 4月 | 石川県県央土木総合事務所都市施設課                       |
| 2010 (平成22) 年 4月 | 石川県環境部水環境創造課                            |
| 2014 (平成26) 年 4月 | 石川県南加賀土木総合事務所河川砂防課                      |
| 2016 (平成28) 年 3月 | 金沢大学大学院自然科学研究科環境科学専攻 博士後期課程 修了, 博士 (工学) |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 石川県県央土木総合事務所維持管理課                       |
| 2017 (平成29) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部講師                          |
| 2017 (平成29) 年 7月 | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻講師               |
| 2019 (平成31) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部 准教授                        |
| 2019 (平成31) 年 4月 | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 准教授             |

## Research

■取得学位 博士 (工学) (金沢大学)

■専門分野 下水道工学, 水処理工学, バイオマス利活用 (汚泥処理), 水環境保全

## ■現在の研究テーマ

- ・下水汚泥と廃棄物系バイオマスによる混合消化
- ・下水汚泥へのマイクロ波照射前処理による嫌気性消化効率化
- ・中小規模市町村における生活排水処理システム評価
- ・嫌気性消化処理を活用した下水処理場の大規模被災時エネルギー供給拠点化

■受賞歴 令和元年第56回環境工学研究フォーラム論文賞, 令和3年日本下水道協会優秀論文賞

■所属学会 土木学会, 日本水環境学会, 日本下水道協会

■資格 技術士 (上下水道部門)

## Data

## ■研究等活動

## 【論文 (査読有)】

- ・「Assessment of Surface Water Quality of Huai Luang River in Udon Thani, Thailand, Using the Water Quality Index」(共著), 2023年12月, International Journal of Environmental Science and Development 14(6) 381-387
- ・「Ammonia tolerance and microbial community in thermophilic co-digestion of sewage sludge initiated with lignocellulosic biomass」(共著), 2023年5月, Bioresource Technology 376 128834-128834
- ・「小規模処理場から発生する余剰汚泥のメタン生成ポテンシャルに及ぼす脱水の影響」(共著), 2021年11月, 土木学会論文集G (環境) Vol.77(No.7), pp.359-365
- ・「下水汚泥と稲わらの高温混合メタン発酵によるエネルギー回収と残渣の水田への利用可能性」(共著) (筆頭), 2020年12月, 土木学会論文集G (環境) Vol.76(No.7), pp.481-490
- ・「オキシデーションディッチ汚泥と稲わらの高濃度高温混合消化-パイロットプラントによる実証-」(共著), 2020年12月, 土木学会論文集G (環境) Vol.76(No.7), pp.471-479
- ・「下水汚泥の無加温嫌気性消化の現場維持管理データ分析とその活用について」(共著), 2020年3月, 下水道協会誌, Vol.57, No.689, pp.66-75
- ・「オキシデーションディッチ汚泥の高濃度高温消化に及ぼす稲わらの添加効果」(共著), 2019年12月, 土木学会論文集G (環境) Vol.75(No.7), pp.451-459
- ・「混合メタン発酵基質としての浄化槽汚泥のエネルギー価値評価」(共著), 2019年12月, 土木学会論文集G (環境) Vol.74(No.7) pp.135-143
- ・「下水汚泥と稲わらの混合メタン発酵による地域内資源循環システムに関する研究」(共著) (筆頭), 2018年12月, 土木学会論文集G (環境) Vol.74(No.7) pp.215-223
- ・「下水汚泥との混合メタン発酵に向けたスーパーマーケット拠点方式生ごみ分別収集システム」(共著) (筆頭), 2017年11月, 土木学会論文集G (環境) Vol.73, 2017, pp.105-113
- ・「Methane Recovery and Microbial Community Analysis of a High Solid Thermophilic Co-digestion of Sewage Sludge and Waste Fried Tofu」(共著), 2016年10月, Journal of Water and Environment Technology, Vol.14, No.5, pp.319-328
- ・「Effects of microwave pretreatment of dewatered sludge from an oxidation-ditch process on the biogas yield in mesophilic anaerobic digestion」(共著) (筆頭), 2016年8月, Journal of Water and Environment Technology, Vol.14, No.3, pp.158-165
- ・「Anaerobic digestion of sewage sludge with high solid content and its use as fertilizer」(共著), 2015年10月, Journal of Water and Environment Technology, Vol.13 No.5 2015, pp.349-358
- ・「OD汚泥と廃油揚げを主体とする7種の廃棄物系バイオマスの高濃度混合消化」(共著) (筆頭), 2014年12月, 土木学会論文集G (環境) Vol.70, 2014, pp.114-122
- ・「Comparative performance of mesophilic and thermophilic anaerobic digestion for high-solid sewage sludge」(共著), 2013年12月, Bioresource Technology, Volume 149, December 2013, pp.177-183
- ・「オキシデーションディッチ汚泥と廃油揚げを用いた高濃度混合嫌気性消化」(共著) (筆頭), 2013年11月, 土木学会論文集G (環境) Vol.69, 2013, pp.5597-603

## 【報告書】

- ・「小規模処理場施設に適したメタンガス有効利用支援に関する共同研究報告書」(共著), 2014年6月, 独立行政法人土木研究所
- ・「稲わらと下水汚泥の高濃度混合高温消化と炭化を核とした地域内循環システムに関する研究報告書」(共著), 2019年3月, 国土技術政策総合研究所 下水道革新的技術実証事業 (B-DASHプロジェクト)

## 【総説等】

- ・「混合嫌気性消化による下水処理場の地域バイオマスステーション化」(単著), 2021年11月, 再生と利用 45(168), pp.46-54
- ・「小規模市町村における地域で発生する廃棄物系バイオマスの混合嫌気性消化」(単著), 2021年4月, 用水と廃水 63(4), pp.51-56
- ・「稲わらと下水汚泥の混合メタン発酵処理システム」(共著) (筆頭), 2020年5月, 環境工化技術 19(3), pp.53-58
- ・「下水汚泥のリサイクルと小規模下水処理場向け高濃度混合メタン発酵技術」(共著), 2015年9月, 日本エネルギー学会誌, 第94巻7号, 2015, pp.705-714

## 【国際会議】

- ・「Improvement of energy recovery and sludge fertilizer quality by the addition of tofu residue in anaerobic digestion of sewage sludge」(共著) (筆頭), 2024年8月, IWA World Water Congress & Exhibition Toronto, 2024
- ・「Energy and silicon recovery by anaerobic co-digestion of sewage sludge and rice straw」(共著) (筆頭), 2024年6月, 18th IWA World Conference on Anaerobic Digestion
- ・「Microbial community and methane yield transition by decreasing of rice straw addition in high solid thermophilic sludge co-digestion」(共著), 2022年9月, IWA World Water Congress & Exhibition Copenhagen 2022
- ・「Regional resource and energy circulation by anaerobic digestion of organic wastes with lactic acid and photosynthetic bacteria」(共著), 2020年9月, Virtual Sustainable Waste Management Conference, September 15-17
- ・「Effect of Extracellular Polymeric Substances on Methane Production Potential of Activated Sludge from Oxidation Ditch Process」(共著), 2018年7月, Water and Environment Technology Conference 2018
- ・「Anaerobic digestion of highly concentrated sewage sludge for sludge management in small cities」(共著), 2014年9月, IWA World Water Congress & Exhibition, Lisbon, Portugal
- ・「Anaerobic co-digestion of highly-concentrated sewage sludge and organic wastes for small facilities」(共著), 2013年6月, 13th World Congress on Anaerobic Digestion, June 25-28, Santiago de Compostela, Spain, p.220
- ・「Mesophilic co-digestion of sewerage sludge in the oxidation-ditch process and wasted fried tofu」(共著), 2012年12月, Proceedings of the 4th IWA Asia-Pacific Young Water Professionals Conference 2012 Tokyo, pp.148-151

## ■社会貢献活動

- ・鳥取県浄化槽整備及び適正管理推進協議会会長 (2021年～)
- ・鳥取市下水道等事業運営審議会委員 (2018年～)
- ・鳥取市水道事業審議会委員 (2018年～)
- ・「よなご未来利用エネルギー活用事業」事業可能性調査業務検討委員会委員長 (2019年～2020年)
- ・招待講演 第23回水環境学会シンポジウム「地域内資源・エネルギー循環拠点としての下水処理場 (メタン発酵を核として) (2020年9月)
- ・招待講演 第57回環境工学研究フォーラム・一般公開シンポジウム【環境工学と農業分野の連携による資源・エネルギー循環】「農業廃棄物 (稲わら) と下水汚泥の混合消化について」(2020年12月)
- ・倉吉市下水道使用料審議会委員 (2018年～2019年)
- ・鳥取市尚徳大学「下水道の役割と未来へ循環型社会の構築に向けて～」(2019年7月)
- ・石川県下水道フォーラム講演「下水汚泥はエネルギーの源！～さらわれ者から役立つ資源(しげん)へ～」(2018年10月)
- ・鳥取県農林水産部指定管理施設運営評価委員会委員 (2017年)





研究キーワード

地理学, ジオパーク

柚洞 一央

准教授

YUHORA, Kazuhiro

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

## Profile

■主な担当科目 人文地理学, 環境地理学, 自然環境と文化

## ■研究者略歴

|                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| 1994 (平成 6) 年 3月  | 栃木県立宇都宮高等学校卒業              |
| 2001 (平成13) 年 3月  | 琉球大学法学部人文学科卒業              |
| 2004 (平成16) 年 3月  | 筑波大学大学院教育研究科修了             |
| 2011 (平成23) 年 3月  | 北海道大学大学院文学研究科修了            |
| 2011 (平成23) 年 4月～ | 室戸ジオパーク推進協議会地理専門員          |
| 2015 (平成27) 年 4月～ | 徳山大学経済学部准教授                |
| 2015 (平成27) 年 4月～ | 高知工科大学非常勤講師 (地誌学)          |
| 2017 (平成29) 年 4月～ | 山口大学人文学部非常勤講師 (人文地理学・地誌学)  |
| 2018 (平成30) 年 4月～ | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授        |
| 2018 (平成30) 年 7月～ | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授 |

## Research

■取得学位 博士 (文学) 北海道大学, 修士 (教育学) 筑波大学

■専門分野 地理学, ジオパーク, ジオツーリズム, 地域づくり

■現在の研究テーマ  
・地球と人が共存できる社会の実現  
・主体的・対話的で深い学び

■受賞歴 2008 (平成20) 年3月 学会賞 (奨励賞) 日本地理学会

■所属学会 日本地理学会 人文地理学会 日本第四紀学会 北海道地理学会 生き物文化誌学会

■資格  
中学校教諭専修免許状 (社会)  
高等学校教諭専修免許状 (地理歴史)

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・「SDGsを考える」(共著), 2020年, ナカニシヤ出版
- ・「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」(共著), 2019年, 今井出版
- ・「Natural Heritage of Japan: Geological, Geomorphological, and Ecological Aspects」(共著), 2017年, Springer
- ・「フィールドノート古今東西 (FENICS100万人のフィールドワーカーシリーズ13)」(共著), 2016年, 古今書院
- ・「中部・近畿・四国のジオパーク (シリーズ大地の公園)」(共著), 2015年, 古今書院
- ・「生き物文化の地理学 (ネイチャー・アンド・ソサエティ研究第2巻)」(共著), 2013年, 海青社

## 【論文】

- ・「室戸高校における地理学的視点を取り入れたジオパーク教育」(共著), 2016年, 『地学雑誌』125(6)
- ・「ジオパーク活動における地理学的視点の役割」(共著), 2014年, 『E-journal GEO』9(1)
- ・「多自然川づくりとは何だったのか?」(共著), 2012年, 『E-journal GEO』7(2)
- ・「Bank Erosion along the Rajang River in Malaysia」(共著), 2009年, 『地理学論集』84号
- ・「[花蜜資源]を求めて: アルゼンチンにおける日系人養蜂業者の移動と経営戦略」, 2007年, 『地理学論集』82号
- ・「日本の養蜂業における移動空間の狭域化と生産形態の多様化」, 2006年, 『地理学評論』79(13)

## ■社会貢献活動

- ・世界ジオパークネットワーク個人会員
- ・日本ジオパークネットワーク現地審査員
- ・Mine 秋古台ジオパーク推進協議会委員
- ・萩ジオパーク推進協議会顧問
- ・鳥取県河川委員会委員

市民向け講演・グループワークファシリテーター実績多数

テーマ: 青少年教育, 不登校・発達障害, 助け合い社会の実現 (福祉), 人権教育, 地域住民主体の地域づくりなど



## 研究キーワード

キノコ, 木材腐朽菌, 加硫ゴム, ゴム生分解, 資源変換

佐藤 伸

SATO, Shin

准教授

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

s-sato@kankyo-u.ac.jp

## Profile

■主な担当科目 応用微生物学概論, バイオマス変換論, 有機資源利用学, 応用化学概論(分担), 生物学実験(分担)

## ■研究者略歴

|                  |                                         |
|------------------|-----------------------------------------|
| 1999 (平成11) 年 3月 | 弘前大学農学部農業生産科学科卒業                        |
| 2001 (平成13) 年 3月 | 京都大学大学院農学研究科博士前期過程終了                    |
| 2005 (平成17) 年 3月 | 京都大学大学院農学研究科博士後期過程終了 農学博士               |
| 2005 (平成17) 年 4月 | 京都大学生存圏研究所非常勤研究員                        |
| 2005 (平成17) 年 5月 | 米国ペンシルベニア州立大学ポストドクトラルフェロー               |
| 2007 (平成19) 年 8月 | 京都市大学生存圏研究所産学官連携研究員                     |
| 2008 (平成20) 年 4月 | 京都市大学生存圏研究所教務補佐員                        |
| 2008 (平成20) 年 5月 | 長岡技術科学大学工学部産学官連携研究員                     |
| 2009 (平成21) 年 4月 | 鳥取環境大学環境マネジメント学科講師                      |
| 2012 (平成24) 年 4月 | 鳥取環境大学環境学部環境学科講師                        |
| 2013 (平成25) 年 4月 | 鳥取環境大学環境学部環境学科・同大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授   |
| 2015 (平成27) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科・同大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授 |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授              |

## Research

■取得学位 農学博士(京都大学)

■専門分野 応用微生物学, バイオマス変換化学

■現在の研究テーマ・キノコによる加硫天然ゴムの分解, および脱硫メカニズムの解明  
・キノコを使った加硫ゴム再資源化プロセスの開発■受賞歴・2019年9月 (株)リバネス・マリンテックグランプリ・三井化学賞  
・2002年12月 若手優秀発表者(第15回エラストマー討論会)

■所属学会 日本木材学会, 日本農芸化学会, 高分子学会, 日本生物工学会, 日本ゴム協会, 日本きのこ学会

## Data

## ■研究等活動

## 【査読付き投稿論文】

- ・「Deterioration of vulcanized natural rubber sheets is associated with removal of calcium carbonate filler by wood-decay fungi, *Trichaptum abietinum* and *Trichaptum biforme*」S. Sato H. K. Tien, W. Inamori, F. Yoneyama, A. Mase. 2023 [Fungal Genomics and Biology], 13(4), 1-6
- ・「Photocatalytic reaction design and its application in real wastewater treatment using TiO<sub>2</sub> coated on the stainless-steel mesh. M. Wongaree, A. Bootwong, S. Choo-in, S. Sato 2022 [Environmental Science and Pollution Research] 29(30), 46293-46305
- ・「X線マイクロCTを用いた木材腐朽菌*Trichaptum abietinum*による加硫天然ゴム分解過程の微細構造解析」佐藤伸, 濱田賢作, 武田佳彦「日本ゴム協会誌」2022 第95巻3号, 77-79
- ・「Degradation of sulfide linkages between isoprenes by lipid peroxidation catalyzed by manganese peroxidase」S. Sato, Y. Ohashi, M. Kojima, T. Watanabe, Y. Honda, T. Watanabe. 2009 [Chemosphere] 77, 798-804
- ・「The first genome-level transcriptome of wood degrading fungus *Phanerochaete chrysosporium* grown on red oak」S. Sato, F.A. Feltus, P. Iyer, M. Tien. 2009 [Current Genetics], 55, 273-286
- ・「Expression Analysis of Extracellular proteins from *Phanerochaete chrysosporium* grown on different liquid and solid substrates」, 2007, [Microbiology], 153, 3023-3033
- ・「Microbial scission of sulfide linkages in vulcanized natural rubber by A white rot basidiomycete, *Ceriporiopsis subvermispora*」S. Sato, Y. Honda, M. Kuwahara, H. Kishimoto, N. Yagi, M. Muraoka, T. Watanabe. 2004 [Biomacromolecules] 5, 511-515
- ・「Degradation of vulcanized and nonvulcanized polyisoprene rubbers by lipid peroxidation catalyzed by oxidative enzymes and transition metals」, S. Sato, Y. Honda, M. Kuwahara, T. Watanabe. 2003 [Biomacromolecules] 4, 321-329

## 【著書】

- ・「白色腐朽菌およびバイオミメティックラジカル反応による加硫および未加硫ゴムの分解」環境修復と有用物質生産(共著), 2003年シーエムシー出版
- 【総説】
- ・「ゴム分解キノコの発見とそれをつかったゴムの再資源化」2022年, 「きのこだより」, 第45巻 36-41
- ・「ゴム分解キノコの発見とそれをつかった加硫ゴムの再資源化」2022年, 「ポリマーTECH」, 第15巻 33-36
- ・「ゴム分解キノコの発見とそれをつかったゴムの再資源化」2022年, 「月間アグリバイオ」, 第6巻, 3号
- ・「ゴム分解キノコの発見とそれをつかった加硫ゴムの再資源化」2022年, 「日本ゴム協会誌」, 第95巻, 1号
- ・「木材腐朽菌による加硫ゴムの分解と再資源化」2021年, 「月間アグリバイオ」, 第5巻, 12号
- ・「木材腐朽菌による加硫ゴムの分解と再資源化」2021年, 「月間アグリバイオ」臨時増刊号, 第5巻, 8号
- ・「キノコの機能を応用した加硫ゴム再資源化技術の開発に向けて」2021年「月間JETI」, 2020年, 第68巻, 11号

## 【特許】

- ・軟化ゴムの製造方法2(特願2022-39379) 佐藤伸
- ・軟化ゴムの製造方法(特願2021-163025) 佐藤伸
- ・ゴムの分離方法(特願2021-001125) 佐藤伸, 濱田賢作
- ・ゴム組成物およびその製造方法, ならびに該ゴム組成物を用いた空気入りタイヤ(特願2004-311254, 平成16年10月26日) 佐藤伸, 渡辺隆司, 岸本浩通, 八木則子, 村岡清繁
- ・リグニン分解酵素によって分解処理された酵素分解ゴムを有するゴム組成物およびその製造方法, ならびにこれを用いた空気入りタイヤ(特願2004-044231, 平成16年2月20日) 佐藤伸, 渡辺隆司, 岸本浩通, 八木則子, 村岡清繁
- ・木材腐朽菌による加硫ゴム組成物の分解処理法(特願2002-2631128, 平成14年9月9日) 佐藤伸, 渡辺隆司, 岸本浩通, 八木則子, 村岡清繁

## 【招待講演】

- ・「ゴム分解キノコの発見とそれをつかったゴムの再資源化」日本ゴム協会関西支部 講演会 2023年9月
- ・「キノコをつかったゴムの再資源化」アドバンテックセミナー 2023 ゴム・高分子とSDGs(オンライン) 2023年2月
- ・「ゴム分解キノコの発見とそれをつかったゴムの再資源化」産業技術連携会議 テクノロジー・材料部会 第60回高分子分科会(オンライン) 2022年11月
- ・「ゴム分解キノコの発見とそれを用いたゴムの再資源化」日本ゴム協会 第60回新世代エラストマー技術研究分科会2022年3月

## 【研究発表】

- ・「木材腐朽菌*Trichaptum*種による加硫天然ゴムシートの劣化分解は炭酸カルシウムフィラーの脱離と関連する」環境バイオテクノロジー学会(東京) 2022年11月
- ・「Biodeterioration of natural rubber sheets: Removal of calcium carbonate filler may be a trigger for the degradation by wood decay fungi, *Trichaptum abietinum* and *Trichaptum biforme*」ISBP2022 (Sion, Switzerland) 2022年9月
- ・「Biodeterioration of natural rubber sheets: Removal of calcium carbonate filler may be a trigger for the degradation by wood decay fungi」RubberCon2022 (Kuala Lumpur, Malaysia) 2022年9月
- ・「天然ゴムシートの劣化分解は木材腐朽菌*Trichaptum*種による炭酸カルシウムフィラーの脱離と関連する」日本きのこ学会年次大会(宇都宮) 2022年9月
- ・「X線マイクロCTを用いた木材腐朽菌*Trichaptum abietinum*による加硫ゴム分解挙動の微細構造解析」日本ゴム協会年次大会(東京・オンライン) 2022年5月
- ・「X線マイクロCTを用いた木材腐朽菌*Trichaptum abietinum*による加硫ゴム分解過程の微細構造解析」日本きのこ学会年次大会(鳥取・オンライン) 2022年3月
- ・「Evaluation of microbial behavior by wood rotting fungi for recycle of rubber wastes」Rubbercon2020 (Paris, France) 2021年2月

## 【科学研究費補助金】

- ・JSPS 2023年度基盤研究(C)「ゴム分解キノコの物性低下因子の特定とそれを用いたゴムの再資源化」(2023~2025)
- ・JSPS 2020年度基盤研究(C)「木材腐朽菌*Shiitake*によるゴムの再資源化」(2020~2022)
- ・JST A-STEP 機能検証フェーズ「ゴム分解菌処理によるゴム再生プロセスの省力化」(2019~2020)

## ■社会貢献活動

## 【中・高等学校出前講義】

- ・「キノコをつかったゴムの再資源化」(米子北高校・オンライン) 2022年12月
- ・「キノコをつかったゴムの再資源化」(丹後緑園高校・オンライン) 2022年6月
- ・「キノコをつかったゴムのリサイクル」夢ナビライブ 2022年5月
- ・「キノコをつかったゴムのリサイクル」夢ナビライブ 2021年5月
- ・「ゴムを再資源化するキノコ?!」夢ナビライブ 2020年9月

## 【鳥取環境大学公開講座】

- ・「キノコをつかったゴムの再資源化」2022年7月
- ・「食べるだけがきのこじゃない! ?きのこのちからでゴムをリサイクル」2018年5月
- ・「木を分解する菌類のお話」2013年10月



## 研究キーワード

土壌侵食, 土壌劣化, 物質循環, 集水域, 地理情報システム

角野 貴信

准教授

KADONO, Atsunobu

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻URL <https://sites.google.com/site/kadonoslab/>URL <http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g007308> [kadono@kankyo-u.ac.jp](mailto:kadono@kankyo-u.ac.jp)

## Profile

■主な担当科目 基礎土壌学, 環境土壌学, 水環境学

## ■研究者略歴

|                  |                                        |
|------------------|----------------------------------------|
| 2000 (平成12) 年 3月 | 京都大学農学部生産環境科学科卒業                       |
| 2006 (平成18) 年 4月 | 地球環境学研究所リサーチアシスタント                     |
| 2008 (平成20) 年 3月 | 京都大学農学研究科博士後期課程修了, 博士 (農学)             |
| 2008 (平成20) 年 4月 | 日本原子力研究開発機構博士研究員                       |
| 2009 (平成21) 年 1月 | 首都大学東京都市環境科学研究科助教                      |
| 2010 (平成22) 年 8月 | 米国オハイオ州立大学博士研究員                        |
| 2011 (平成23) 年 9月 | 鳥取環境大学人間形成教育センター講師                     |
| 2012 (平成24) 年 4月 | 鳥取環境大学環境学部環境学科講師                       |
| 2013 (平成25) 年 4月 | 鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授   |
| 2015 (平成27) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授 |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科准教授                  |

## Research

■取得学位 博士 (農学) (京都大学)

■専門分野 土壌学, 生物地球化学

■現在の研究テーマ

- ・河川堆積物及び懸濁物のアノマリーデータから予想される流域内土砂流出量の期待値分布
- ・千代川流域における流域土壌から水系への物質移動過程に関する研究
- ・有機質資材を用いた土壌有機物の蓄積及び分解過程の解明とそのモデル化
- ・水田土壌からの温室効果ガス (二酸化炭素・メタン・亜酸化窒素) 放出に関する研究
- ・浸透過程における有機物-粘土鉱物間の吸着メカニズムに関する研究

■受賞歴 2009 (平成21) 年4月 日本ペドロジー学会論文賞

2017 (平成29) 年3月 日本ペドロジー学会論文賞

■所属学会 日本土壌肥料学会, 日本ペドロジー学会, 日本地理学会, 日本水環境学会

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・持続可能な社会における土壌資源管理とその指標化 (共著 (06章を単著)) 「SDGsを考える」ナカニシヤ出版, pp. 99-111. 2020
- ・10.4 土壌劣化と砂漠化 (共著 (10.4節を単著)) 「改訂 土壌学概論」朝倉書店, pp. 167-173. 2020
- ・03土の黒さから考える自然資源の保全と利用の適切なバランス (共著 (03章を単著)) 公立鳥取環境大学環境学部「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」今井出版, pp. 28-34. 2019
- ・4-4 チェルノゼムにおけるコムギ栽培と土壌有機物分解 (共著 (4-4節を単著)) 日本土壌肥料学会「土のひみつ」編集グループ (編) 「土のひみつ」朝倉書店, pp. 96-99. 2015
- ・10.4.2 Soil organic carbon change. (共著) Status of the World's Soil Resources, FAO, pp. 299-300. 2015
- ・Could Soil Acidity Enhance Sequestration of Organic Carbon in Soils? (共著) A.E. Hartemink and K. McSweeney (Eds) Soil Carbon, Springer International Publishing, pp. 209-216. 2014

## 【論文・報告】

- ・有機質資材連用年数が水稻による窒素吸収量及び水田土壌中の窒素含量に与える影響 (共著) 地域イノベーション研究 9, 11-16. 2022
- ・有機質資材の投入が酒造好適米の生産環境に与える影響 (共著) 地域イノベーション研究 8, 22-26. 2021
- ・不撓乱環境下における土壌有機物代謝過程の分子動力学的解析 (共著) 地域イノベーション研究 5, 19-23. 2018
- ・ミネラルウォーターのおいしさに係る簡単な水質指標の導出 (共著) 鳥取環境大学紀要 15, 103-108. 2017
- ・Ecological state of soil and land resources of the Russian Far East (共著) The Territory of New Opportunities 4, 166-175. 2016
- ・中国内モンゴル自治区フルンボイル草原において観光行動が草原退化に及ぼす影響 (共著) ペドロジスト 59 (2), 52-62. 2015
- ・中国内モンゴル自治区の牧畜業において土地利用様式の違いが植生及び土壌に与える影響 (共著) ペドロジスト 59 (2), 41-51. 2015
- ・In situ short-term dynamics of CO<sub>2</sub> flux and microbial biomass after simulated rainfall in dry croplands in four tropical and continental ecosystems (共著) Soil Science and Plant Nutrition 61, 392-403. 2015
- ・Long-term tillage and drainage influences on greenhouse gas fluxes from a poorly drained soil of central Ohio (共著) Journal of Soil and Water Conservation 69 (6), 553-563. 2014
- ・Effects of climatic and soil properties on cellulose decomposition rates in temperate and tropical forests (共著) Biology and fertility of soils 50 (4), 633-643. 2014

## 【国際会議】

- ・The effect of bamboo powder application on the yield of Japanese white radish (*Rhaphanus sativus* L.) and soil properties. (共同) The 21st World Congress of Soil Sciences, Rio de Janeiro, Brazil, 2018
- ・Environmental studies for the sustainable development during the international decade of soils 2015-2025 (単独) International Symposium "Entrepreneurship as a Factor of Dynamic Development of the Russian Far East", Vladivostok, Russia, 2016
- ・Modeling of Greenhouse Gas Emission from Soils under Different Ecosystem (単独) International Symposium "Ecological Challenges of Nature Management and Environmental Protection in the Asia-Pacific Region", Vladivostok, Russia, 2015
- ・Modeling of Carbon Dioxide Emission from Cornfield Soils under Different Water Table and Tillage Management in Central Ohio, USA (共同) 20th World Congress of Soil Science, Jeju, Korea, 2014
- ・Grassland degradation caused by tourism activities in Hulunbuir, Inner Mongolia, China (共同) IOP Conference Series: Earth and Environmental Science 18 (1), 012137. 8th International Symposium of the Digital Earth (ISDE8), Kuching, Sarawak, Malaysia, 2013

## ■社会貢献活動

- ・『山』と『海』がつながっていることを調べよう! 「とっとり名産探し隊〜つながる山と海! 海を支える恵みの正体を追え〜」(2022年8月)
- ・土は生きている! 土の中のいろんな生き物を観察してみよう 「山陰海岸ジオパーク科学実験教室」(2018年7月)
- ・地域の自然資源を循環させて, 環境をまもる土づくり 「公立鳥取環境大学公開講座」(2021年6月)
- ・おどろきの土の生きものたち 「2021年度第2回山陰海岸ジオパークサイエンスカフェ」(2021年10月)
- ・鳥取県環境影響評価審査委員会 (2012年4月〜2019年3月)
- ・鳥取市こども科学館運営委員会委員 (2015年4月〜2020年3月)
- ・日本土壌肥料学会土壌教育委員 (2022年4月〜現在)



## 研究キーワード

衛星画像, 画像処理, 機械学習, 沿岸生態系, 浅海域海底地形

佐川 龍之

准教授

SAGAWA, Tatsuyuki

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻<https://sagawalab.wixsite.com/remotesensing>

## Profile

■主な担当科目 地球観測学, 環境情報学概論, AI, AI実践演習, 情報リテラシ2, リモートセンシング特論

## ■研究者略歴

|                  |                                             |
|------------------|---------------------------------------------|
| 2003 (平成15) 年 3月 | 早稲田大学理工学部土木工学科卒業                            |
| 2005 (平成17) 年 9月 | 東京大学大学院修士課程新領域創成科学研究科環境学専攻修了                |
| 2006 (平成18) 年 4月 | 日本学術振興会特別研究員 (～2009年3月)                     |
| 2008 (平成20) 年 9月 | 東京大学大学院博士課程新領域創成科学研究科自然環境学専攻修了, 環境学博士       |
| 2009 (平成21) 年 4月 | セコム株式会社S研究所研究員 (～2012年1月)                   |
| 2012 (平成24) 年 2月 | 一般財団法人リモート・センシング技術センター研究開発部研究員              |
| 2015 (平成27) 年 7月 | 一般財団法人リモート・センシング技術センター研究開発部主任研究員            |
| 2019 (平成31) 年 4月 | 早稲田大学理工学術院非常勤講師 (～2023年9月)                  |
| 2019 (平成31) 年 4月 | 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構地球観測研究センター主任研究開発員         |
| 2021 (令和 3) 年 7月 | 一般財団法人リモート・センシング技術センター研究開発部主任研究員 (～2022年3月) |
| 2022 (令和 4) 年 4月 | 公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授                       |
| 2023 (令和 5) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授                         |

## Research

■取得学位 環境学博士 (東京大学)

■専門分野 リモートセンシング, 人工知能, 画像処理, 環境学

■現在の研究テーマ

- ・衛星画像を用いた浅海域海底地形推定技術に関する研究
- ・沿岸環境のモニタリングに関する研究
- ・リモートセンシングデータの農業分野への活用に関する研究
- ・リモートセンシングによる水環境モニタリング

■受賞歴 2018 (平成30) 年3月 内閣府主催第3回宇宙開発利用大賞 環境大臣賞  
2024 (令和 6) 年3月 一般財団法人日本水路協会 令和5年度水路技術奨励賞

■所属学会 日本リモートセンシング学会, 日本写真測量学会, 日仏海洋学会

■資格 測量士, 潜水士

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・「リモートセンシング事典」(共著), 2022年, 丸善出版.
- ・「Sustainable Development - Education, Business and Management - Architecture and Building Construction - Agriculture and Food Security」(共著), 2012年, IntechOpen.

## 【論文】

- ・「多時期の衛星画像と機械学習を用いた浅海域の水深推定技術の高度化」(単著), 2024年, 水路, Vol. 53, No. 2, pp. 18-23.
- ・「Bathymetry from PlanetScope imagery using random forest and deep learning」(共著), 2023年, Proceedings of the 2023 Asian Conference on Remote Sensing, ACRS2023097.
- ・「衛星画像を用いた浅海域の海底地形推定技術 (SDB) ～機械学習と多数の衛星画像を活用した技術の高度化～」, 2023年, 水路, Vol. 52, No. 1, pp. 11-16.
- ・「Mapping aquaculture rafts from a GeoEye-1 image using U-Net」(共著), 2022年, Proceedings of the 2022 Asian Conference on Remote Sensing, ACRS22\_37.
- ・「Monitoring trophic status using in situ data and Sentinel-2 MSI algorithm: lesson from Lake Malombe, Malawi」(共著), 2022年, Environmental science and pollution research, Nov. 2022, pp. 1-18.
- ・「耕作地におけるSGLIとMODIS地表面温度プロダクトの相互利用の検討」(共著), 2021年, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 41, No. 5, pp.603-610.
- ・「Practical mapping methods of seagrass beds by satellite remote sensing and ground truthing」(共著), 2020年, Coastal marine science, Vol. 43 No. 1, pp. 1-25
- ・「WorldView衛星画像を用いた浅海域における汎用水深推定式に関する研究」(共著), 2019年, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 39, No. 2, pp.112-122.
- ・「Satellite derived bathymetry using machine learning and multi-temporal satellite images」(共著), 2019年, Remote Sensing, Vol. 11, No. 1155, pp. 1-19.

## 【報告書】

- ・「衛星画像推定水深を活用した海洋情報業務の展望」(共著), 2017年, 海洋情報部研究報告, Vol. 54, pp. 17-31.

## 【特許】

- ・「画像処理装置」(共著), 2015年, 登録番号: 第5715863号, 内容: 動画からの移動物体抽出に関する装置.

## ■社会貢献活動

- ・文部科学省科学技術 学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員 (2017.4～2025.3)
- ・UNESCO IOC (政府間海洋学委員会) /WESTPAC (西部太平洋地域委員会) におけるORSP (海洋リモートセンシング・プログラム) の運営委員会 (steering committee) のリーダー (2023.5～現在)
- ・環境省令和5年度瀬戸内海藻場・干潟調査業務 ワーキンググループ委員 (2023.4～2024.3)
- ・環境省令和6年度有明海干潟等調査業務 ワーキンググループ委員 (2024.4～2025.3)
- ・富山湾プロジェクト調査研究委員会ワーキンググループ委員 (2024.4～現在)



## 研究キーワード

サンゴ, 化石, 進化, 骨格微細構造, 機能形態, 古環境復元

## 徳田 悠希

准教授

TOKUDA, Yuki

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

## Profile

■主な担当科目 地学概論, 環境地質学, 地学実験

## ■研究者略歴

|                  |                                   |
|------------------|-----------------------------------|
| 2006 (平成18) 年 3月 | 大阪市立大学理学部地球学科 卒業                  |
| 2008 (平成20) 年 3月 | 大阪市立大学理学研究科前期博士課程 修了              |
| 2010 (平成22) 年 3月 | 大阪市立大学理学研究科後期博士課程 単位取得退学          |
| 2010 (平成22) 年 4月 | 鳥取県立博物館 学芸員                       |
| 2012 (平成24) 年 4月 | 鳥取県立博物館 主任学芸員                     |
| 2013 (平成25) 年 3月 | 学位取得 博士(理学) (大阪市立大学)              |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師               |
| 2016 (平成28) 年 6月 | 公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻 講師           |
| 2020 (令和 2) 年10月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科/環境経営研究科環境学専攻 准教授 |

## Research

■取得学位 博士(理学) (大阪市立大学)

■専門分野 地質学 古生物学

■現在の研究テーマ

- ・イシサンゴ類の進化史の解明
- ・南西諸島海域における深海サンゴの多様性の解明
- ・山陰海岸に分布する海食洞の形成様式と洞内生物群集
- ・新生界から産出する無藻性イシサンゴ化石の系統分類学的検討
- ・南極海の現生および化石サンゴ類の多様性と古海洋環境の解明

■受賞歴

|         |         |         |
|---------|---------|---------|
| 2009年1月 | 日本古生物学会 | 優秀ポスター賞 |
| 2009年9月 | 日本地質学会  | 優秀ポスター賞 |
| 2012年9月 | 日本地質学会  | 優秀ポスター賞 |
| 2017年9月 | 日本地質学会  | 優秀ポスター賞 |
| 2018年9月 | 日本地質学会  | 優秀ポスター賞 |
| 2022年7月 | 日本古生物学会 | 論文賞     |

■所属学会 日本古生物学会, 日本地球惑星科学連合, 日本サンゴ礁学会, 鳥取地学会

## Data

## ■研究等活動

## 【論文(査読あり)】

- ・Tokuda, Y., Yamada N., Endo H., Sentoku A., Ezaki Y., Hayashi H., Matsuura Y., and Kawano S. (in press) Azooxanthellate colonial corals from the Miocene Omori Formation, Shimane, Japan. *Paleontological Research*.
- ・Tokuda, Y., Kawakita S., Sentoku A., Ezaki Y., Tanaka N., Nagasawa S., Nakaguchi K., Yamaguchi S., Kondo Y., and Ohtsuka S. (2024) Influence of sipunculan (peanut worm) activity on orifice formation in scleractinian *Heterocyathus* for adaptation to soft substrates. *Scientific Reports*, 14, 9817.
- ・鈴木克明・板木拓也・片山肇・兼子尚知・山崎誠・有元純・徳田悠希・千徳明日香・清家弘治 (2022) トカラ列島周辺海域の底質分布とその制御要因. 地質調査研究報告, vol. 74, p. 259-286.
- ・鈴木克明・板木拓也・片山肇・兼子尚知・山崎誠・徳田悠希・千徳明日香 (2022) 宝島及び諏訪之瀬島周辺海域の底質分布とその制御要因. 地質調査研究報告, vol. 73, p. 275-299
- ・Ishiwa, T., Tokuda, Y., Sasaki, S., Itaki, T., Suganuma, Y., Katsuki, K., and Ikehara, M. (2022) Non-destructive analysis and lithological descriptions of sediment cores from Lake Nurume, Langhovde in Lützow-Holm Bay. *Polar Data Journal*, vol. 6, p. 80-89.
- ・Yamasaki, H., Fujimoto, S., Tanaka, H., Shimada, D., Ito, M., Tokuda, Y., & Tsujimoto, M. (2022) Taxonomy, genetic diversity, and phylogeny of the Antarctic mud dragon, *Polacanthoderes* (Kinorhyncha: Echinorhagata: Echinoderidae). *Zoologischer Anzeiger*, vol. 301, p. 42-58.
- ・Sasaki, S., Irizuki, T., Itaki, T., Tokuda, Y., Ishiwa, T. and Suganuma, Y. (2022) Relationship between modern deep-sea ostracods and water mass structure in East Antarctica. *Paleontological Research*, vol. 27, p. 211-230.
- ・Sentoku, A., Shimizu, K., Naka, T., and Tokuda, Y. (2022) Dimorphic life cycle through transverse division in burrowing hard coral *Deltocyathoides orientalis*. *Scientific Reports*, 12, 9359.
- ・Tamura, T., Ishiwa, T., Tokuda, Y., Itaki, T., Sasaki, S., Suganuma, Y. (2022) Luminescence characteristics of coastal sediments in Langhovde, East Antarctica. *Quaternary Geochronology*, vol. 70, 101298-101298.
- ・Sentoku, A. and Tokuda, Y. (2021) New Records of Azooxanthellate Scleractinian Corals (Cnidaria: Anthozoa) from Sagami Bay and Suruga Bay, Japan. *Zoological Science*, vol. 39, p. 52-61.
- ・Ishiwa, T., Tokuda, Y., Itaki, T., Sasaki, S., Suganuma, Y. and Yamasaki S. (2021) Bathymetry data and water column profiles in the shallow waters of Langhovde in Lützow-Holm Bay, East Antarctica. *Polar Science*, 100650.
- ・Tokuda, Y. and Ezaki, Y. (2020) Microskeletal structures suggest taxonomic distinction between subgenera of azooxanthellate scleractinian *Flabellum*. *Paleontological Research*, vol. 24, p. 261-275.
- ・延原尊美・大高歩美・徳田悠希・池原 研 (2018) 東海沖深海底の貝類およびサンゴ遺骸のAMS<sup>14</sup>C年代. 静岡大学地球科学研究報告, 第45号, p. 17-22.
- ・Sentoku, A., Tokuda, Y., Ezaki, Y. and Webb, G. E. (2018) Modes of regeneration and adaptation to soft-bottom substrates of the free-living solitary scleractinian *Deltocyathoides orientalis*. *Lethaia*, Vol. 51, p. 102-111.
- ・Kitamura, A., Imai, T., Mitsui, Y., Ito, M., Miyairi, Y., Yokoyama, Y. and Tokuda, Y. (2017) Late Holocene uplift of the Izu Islands on the northern Zenisu ridge off Central Japan. *Progress in Earth and Planetary Science*, 4, 30.
- ・Tokuda, Y., Haraguchi, H. and Ezaki, Y. (2017) First real-time observation of transverse division in azooxanthellate scleractinian corals. *Scientific Reports*, 7, 41762.
- ・Shiino, Y. and Tokuda, Y. (2016) How does flow recruit epibionts onto brachiopod shells? Insights into reciprocal interactions within the symbiotic framework. *Palaeoworld*, vol. 25, p. 675-683.
- ・Sentoku, A., Tokuda, Y. and Ezaki, Y. (2016) Burrowing hard corals occurring on the sea floor since 80 million years ago. *Scientific Reports*, 6, 24355.
- ・和田年史・徳田悠希・一澤 圭 (2014) 鳥取県立博物館のダイオウイカ骨浸漬展示標本. 鳥取県立博物館研究報告, 第51号, p. 67-71.
- ・Tokuda, Y. and Ezaki Y. (2013) Attachment structures in *Rhizotrochus* (Scleractinia): Macro- to microscopic traits and their evolutionary significance. *Lethaia*, vol. 46, p. 232-244.
- ・Tokuda, Y. and Ezaki, Y. (2012) Asexual reproduction of Pliocene solitary scleractinian coral *Truncatoflabellum*: Morphological and biometric study. *Journal of Paleontology*, vol. 86, p. 268-272.
- ・和田年史・徳田悠希・山口暁美 (2012) 「総合的な学習の時間」におけるジオパークと博物館の活用事例. 鳥取県立博物館研究報告, 第29号, p. 17-28.
- ・Tokuda, Y., Ikeno, T., Goto, G. S., Numata, H. and Ezaki, Y. (2010) Influence of different substrates on the evolution of morphology and life-history traits of azooxanthellate solitary corals (Scleractinia: Flabellidae). *Cnidological Journal of the Linnean Society*, vol. 101, p. 184-192.

## 研究キーワード

グループ・ダイナミックス, エネルギーコミュニケーション, 環境コミュニケーション, 環境活動, 環境配慮行動, 地域活性化

甲田 紫乃

准教授

KODA, Shino

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻URL  <http://jp.shinokoda.com/> [s-koda@kankyo-u.ac.jp](mailto:s-koda@kankyo-u.ac.jp)

## Profile

■主な担当科目 環境政策論, 大気汚染防止, 環境アセスメント概論, 環境教育論, 衛生工学特論, SDG s 基礎, 麒麟の知

## ■研究者略歴

|                  |                                              |
|------------------|----------------------------------------------|
| 2007 (平成19) 年 3月 | 京都大学経済学部経済学科卒業                               |
| 2009 (平成21) 年 3月 | 京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻修士課程修了        |
| 2012 (平成24) 年 9月 | 京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻博士課程修了        |
| 2012 (平成24) 年10月 | オーストリア Johannes Kepler Universität Linz博士研究員 |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 東京福祉大学国際交流センター特任講師                           |
| 2018 (平成30) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科講師                           |
| 2018 (平成30) 年 7月 | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻講師                    |
| 2023 (令和 5) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授                          |
| 2023 (令和 5) 年 4月 | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授                   |

■取得学位 博士 (エネルギー科学) (京都大学)

■専門分野 エネルギー科学, グループ・ダイナミックス, 社会心理学, エネルギーコミュニケーション

■現在の研究テーマ

- ・日常生活における環境配慮行動
- ・環境活動における環境志向型規範の伝達
- ・環境教育, エネルギー教育
- ・環境アート
- ・コミュニティにおける関係性とコミュニケーション
- ・地域活性化
- ・エネルギーコミュニケーション/環境コミュニケーション

■所属学会 日本グループ・ダイナミックス学会, The International Association of Applied Psychology, The Asian Association of Social Psychology, On Sustainability, Climate Change: Impacts & Responses, 日本質の心理学会, 土木学会, 日本環境教育学会

■資格 日本語教育能力検定試験合格

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・「地域の未来を変える空き家活用—鹿野のまちづくり20年の挑戦」(分担執筆), 2021年, ナカニシヤ出版
- ・「SDGsを考える—歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会—」(共編著), 2020年, ナカニシヤ出版
- ・「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」(分担執筆), 2019年, 今井出版
- ・「21世紀国際社会を考える—多層的な世界を読み解く38章—」(分担執筆), 2017年, 旬報社

## 【論文 (すべて単著, 査読有)】

- ・Koda, S. (2016). Horizontal Relationship and Environmental Communication: A Case Study on Collaborative Activities between SPES and Local Residents in Austria. The International Journal of Environmental Sustainability, Volume 12, Issue 2, pp. 17-31.
- ・甲田紫乃. 「コンビニエンスストアにおける資源浪費の構造—参与観察に基づく短報—」, 2012年, 集団力学, 第 29 巻, pp. 87-103.
- ・Koda, S. (2012). Theoretical Approach to the Collaborative Environmental Activities: Household Waste Disposal towards Environmentally Friendly Daily Life, International Journal of Humanities and Social Science, vol.2, No.6, pp.104-110.
- ・Koda, S. (2012). Towards Environmentally Friendly Management at "Konbini": Case Study at a Convenience Store in Japan, Journal of Alternative Perspectives in the Social Sciences, vol.3, No.4, pp. 946-957.
- ・Koda, S. (2012). The Motivation for Proenvironmental Behavior: Household Waste Disposal towards Environmentally Friendly Daily Life: Case Studies in Finland, Journal of Educational and Social Research, vol.2, No.1, pp. 191-198.

## 【研究発表の抜粋 (すべて単独, 査読有)】

- ・Koda, S. (2021). Forest Environmental Education Contributing to Community Revitalization: A Collaborative Practice Towards the SDGs Based on An Activity Theoretical Approach, Going Green EcoDesign 2021, December 1-3, 2021, Tokyo, Japan, 3
- ・Persuading People to Become Greener Through Collaborative Activities, Going Green CARE INNOVATION 2018, Vienna, Austria, 2018
- ・Horizontal Relationship for A Better Environmental Activity: A Case Study on Collaborative Activities between SPES and Local Residents in Austria, The Second Biennial International Convention of Psychological Science (ICPS), Vienna, Austria, 2017
- ・The "Tree" as a Driving Force for Environmental Education, The Eleventh International Conference on Environmental, Cultural, Economic & Social Sustainability, Copenhagen, Denmark, 2015
- ・Creating a Collective Stream towards an Environmentally Friendly Daily Life, The Sixth International Conference on Climate Change: Impacts and Responses, Reykjavik, Iceland, 2014
- ・Building Sustainable Communities as Part of Revitalization: An Austrian Way Based on Robust and Mutual Relationship between SPES and Local Residents, The Tenth International Conference on Environmental, Cultural, Economic & Social Sustainability, Split, Croatia, 2014

## ■社会貢献活動

## 【委員など】

- ・鳥取砂丘コナン空港カーボンニュートラル拠点化協議会委員 (2023 ~)
- ・湯梨浜町SDGs・脱炭素社会推進会議オブザーバー (2023)
- ・鳥取市都市整備部指定管理者選考委員会委員 (2021 ~)
- ・鳥取県地球温暖化防止活動推進センター チームゼロ・カーボン会議 委員 (2020)
- ・鳥取市 連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員 (2018 ~)

## 【研究関連活動】

- ・The On Sustainability Research Network (イリノイ大学) Advisory Board Member (2019 ~)
- ・竹ノ内研究会 メンバー (2019 ~)
- ・環境教育ネットワークENO (ENO Environment Online - A Global Virtual School and Network for Sustainable Development) 日本/オーストラリア・ナショナル・コーディネーター (2013 ~)

## 【地域の方々に向けた活動】

- ・「SDGs的活動の発信」, 2022, 鳥取県立米子高等学校の生徒会主催による招待講演 (鳥取県立米子高等学校)
- ・「わたしたちの生活から考えるSDGs—持続可能な未来へ向けてのアクション」, 2021, 八頭町男女共同参画センター「かがやき」
- ・「KANラジ第2回テーマ「SDGsを考える」 歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会とは?」, 2020, KANラジ出演 (FM鳥取)
- ・「鳥取から考えるSDGs」, 2020, 鳥取市立桜ヶ丘中学校の総合学習 (さくらほの課's) における講演 (鳥取市桜ヶ丘中学校)
- ・「環境コミュニケーション」, 2020, 「公立鳥取環境大学 未来への授業」 (鳥取県民チャンネルコンテンツ協議会事務局)
- ・「SLCPs」, 2019, 「公立鳥取環境大学 未来への授業」 (鳥取県民チャンネルコンテンツ協議会事務局)
- ・「地球温暖化とエネルギーについて」, 2019, とっとりエコサポーターズ養成講座 (鳥取県地球温暖化防止活動推進センター)

## Research

## Data

## 研究キーワード

気象観測, 雲海予測, ヒートアイランド現象, 熱中症

## 重田 祥範

准教授

SHIGETA, Yoshinori

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻 shigeta@kankyo-u.ac.jp

## Profile

■主な担当科目 気象学概論, 大気環境学, 地球システム学

## ■研究者略歴

|                  |                                   |
|------------------|-----------------------------------|
| 2011 (平成23) 年 3月 | 岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程 修了           |
| 2011 (平成23) 年 4月 | 立正大学地球環境科学部環境システム学科 助教 (～2015年3月) |
| 2015 (平成27) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師 (～2017年3月)    |
| 2017 (平成29) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 准教授              |
| 2017 (平成29) 年 4月 | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 准教授       |

## Research

■取得学位 博士 (理学) (岡山大学)

■専門分野 局地気象学, 生気象学, 環境工学, 地学教育

## ■現在の研究テーマ

- ・都市内の大気環境調査および熱中症リスクの評価
- ・盆地霧の発生・消滅過程の予測
- ・気象の「見える化」と自然災害軽減に向けた気象情報の活用法
- ・暑熱ストレスによる動物行動の変化 (バイオロギング)
- ・ストレスモニタリングによるセラピー効果の検証
- ・気象変化が若年女性の自律神経活動に与える影響

## ■受賞歴

2014 (平成26) 年 7月 第9回全国大会ベストポスター賞 (日本ヒートアイランド学会)  
2015 (平成27) 年11月 平成27年度 日本生気象学会研究奨励賞 (日本生気象学会)

## ■所属学会

日本気象学会, 日本生気象学会, 日本農業気象学会, 日本地理学会, 日本地学教育学会, 日本建築学会, 日本ヒートアイランド学会, 日本風工学会, 土木学会, 大気環境学会, 環境情報科学センター, バイオクリマ研究会

## ■資格

中学校教諭専修免許状 (理科), 高等学校教諭専修免許状 (理科), 健康気象アドバイザー

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」, (共著), 2019年, 今井出版, 36-45.
- ・「環境のサイエンスを学ぼうー正しい実験・実習を行うためにー」, (共著), 2016年, 丸善プラネット出版.
- ・「環境のサイエンスを学ぼうー人と地球の未来のためにー」, (共著), 2011年, 丸善プラネット出版.

## 【論文 (2024年: 査読あり)】

- ・京都府北部で発生する局地風「由良川あらし」の観測ー強風の発達と水平気圧傾度の関係性ー (共著), 2024年, 日本風工学会, 風工学研究論文集 28 85-91.
- ・Multisite Observations of Ultraviolet in Kobe City, Hyogo PrefectureーRelationships between Ultraviolet Intensity and Land Cover Morphologyー (単著), 2024年, Papers on Environmental Information Science 38 203-208.

## 【国際会議】

- ・「Impact on crops due to high temperature in Toyooka City, Hyogo Prefecture」 (単著), 2021, International Symposium on Agricultural Meteorology 2021 (Online conference)
- ・「Ground inversion layer that occurs in Hoki Daisen」 (単著), 2021, International Symposium on Agricultural Meteorology 2021 (Online conference)
- ・「Radiation fogs extinction process estimated from illuminance change」 (単著), 2020, International Symposium on Agricultural Meteorology 2020 (Osaka, Japan)
- ・「The Thermal Environment of the Hanshin Area Brought by Thermal Local Circulation of the Rokko Mountains」 (共著), 2019, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 16th Annual Meeting (Republic of Singapore).
- ・「Verification of Thermal Environments and Temperature Reduction Effects in the Kumamoto Castle Park Using WBGT」 (共著), 2019, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 16th Annual Meeting (Republic of Singapore).
- ・「Hot Environments and Temperature Reduction Effects within Large Urban Green SpacesーMeteorological Observations Around the Kumamoto Castle Parkー」 (共著), 2019, International Symposium on Agricultural Meteorology (Shizuoka, Japan)

## 【招待講演】

- ・「気象と環境変化が自律神経バランスに与える影響」, 日本建築学会, AIJ シンポジウム「スマートウェルネスオフィスの未来」, 2021年.
- ・「雲海予測は観光振興の呼び水になるのか?ー霧の発生メカニズムを探るー」, 2019年度鳥取地学会年末講演会 (鳥取).
- ・「気象災害軽減に向けた防災情報の活用法」2019年度鳥取市防災リーダーフォローアップ研修 (鳥取).
- ・「IoT技術の進展がもたらす気象観測データの有用性」2019年度 IHIグループ 明星電気ビジネスパートナーミーティング (東京).

## 【国内学会: 筆頭講演者】

- ・「中国地方における花粉飛散量と気象要素の関係性」 (共著), 2020, 2020年度日本農業気象学会中国四国支部大会 (オンライン大会).
- ・「宇都宮市で発生するヒートアイランドと土地被覆形態の関係」 (共著), 2020, 2020年日本地理学会秋季学術大会 (オンライン大会).
- ・「風の乱れが引き起こす発電損失ー理論値と実測値の差ー」 (共著), 2020, 日本風工学会, 第26回風工学シンポジウム (オンライン大会).
- ・「岡山県津山盆地における湿数変化と照度の関係性ー地上観測から推定する霧の消滅過程ー」 (単著), 2020, 日本気象学会2020年秋季大会 (オンライン大会).
- ・「大分県日田盆地で発生する放射霧の動態ータイムラプスカメラによる霧の定点観測ー」 (単著), 2020, 日本気象学会2020年秋季大会 (オンライン大会).
- ・「急激な気象変化が若年女性の自律神経バランスに与える影響」 (共著), 2020, 日本気象学会2020年春季大会 (神奈川).
- ・「照度と湿数変化から推定される放射霧の消滅過程ー岡山県津山盆地を例としてー」 (単著), 2020, 日本気象学会2020年春季大会 (神奈川).

## ■社会貢献活動

- ・日本ヒートアイランド学会, 学術委員会 委員 (2023年6月～)
- ・日本ヒートアイランド学会, 学会誌委員 幹事 (2023年6月～)
- ・日本生気象学会 理事 (2023年4月～)
- ・日本生気象学会, 広報委員会 (2023年6月～)
- ・松江市廃棄物処理施設設置検討専門委員会, 委員 (島根県松江市) (2023年5月～)
- ・鳥取砂丘未来会議 委員 (2022年6月～)



## 研究キーワード

ナレッジマネジメント, 有機農業, GIAHS, 地域資源管理, 在来品種

山口 創

准教授

YAMAGUCHI, So

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

so-yama@kankyo-u.ac.jp

## Profile

■主な担当科目 農村の持続的発展, 都市の持続的発展

## ■研究者略歴

|                  |                                            |
|------------------|--------------------------------------------|
| 2007 (平成19) 年 3月 | 神戸大学農学部食料生産環境工学科 卒業                        |
| 2010 (平成22) 年 3月 | 神戸大学大学院農学研究科食料共生システム学専攻 博士課程前期課程修了         |
| 2011 (平成23) 年 4月 | 日本学術振興会特別研究員 (DC2) (～2013年3月)              |
| 2013 (平成25) 年 3月 | 神戸大学大学院農学研究科食料共生システム学専攻 博士課程後期課程修了 博士 (農学) |
| 2013 (平成25) 年 4月 | 神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター 特命助教             |
| 2017 (平成29) 年10月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師                        |
| 2018 (平成30) 年 7月 | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 講師                 |
| 2023 (令和 5) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 准教授                       |
| 2023 (令和 5) 年 4月 | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 准教授                |

## Research

■取得学位 博士 (農学) (神戸大学)

■専門分野 農村計画学, ナレッジマネジメント, 農業経営学

■現在の研究テーマ

- ・農業・農村におけるナレッジマネジメント理論の構築に関する研究
- ・伝統的農業システムの動的保全に関する研究
- ・中山間地域の農業経営におけるカーボנקレジット導入モデルの検討

■所属学会 農村計画学会, 地域農林経済学会, 日本農業経済学会, 環境情報科学センター, 日本農業経営学会

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・山口創 (2018) 在来品種の特産化プロセスと活用に向けた方策—丹波黒, 薦池大納言を事例に一, pp.83-93, 地域固有性の発現による農業・農村の創造 (中塚雅也編著), 筑波書房.
- ・山口創 (2016) 黒大豆栽培における知恵の継承と創造, pp.74-87, エシカルな農業 (伊藤一幸編著), 誠文堂新光社.

## 【論文】

- ・山口創・高田晋史・和佐大地・尾山郁人 (2024) 伝統的農業システムにおける農法の変化に関する研究, 農林業問題研究, 60 (4), 150-158.
- ・橋本佳奈・山口創 (2023) 消費者の農業や農作物に対する関心とCSA加入意向に関する研究, 環境情報科学論文集, 37, 98-103.
- ・陣内綾・山口創 (2021) 大山頂上の自然保全活動における人材確保の実態と課題に関する一考察, 環境情報科学学術研究論文集, 35, 292-297.
- ・山口創 (2021) 農村地域の文化的知識の継承活動における動機づけに関する研究—鳥取県鳥取市S地区における民話の継承活動に着目して—, 農業経済研究93 (1), pp.77-82.
- ・山口創 (2020) テキストマイニング の特徴と農村計画研究への導入, 農村計画学会誌39 (3), pp.294-297.
- ・山口創 (2017) 住民主体の自然資源の保全活動における知識管理の実態と関係主体の役割—あびき湿原の保全活動を事例として—, 環境情報科学学術研究論文集31, pp.71-76.
- ・山口創 (2016) 農場実習における大学生の知識習得・意識変化に影響する要因の分析, 農業経済研究, 88(3), pp. 345-349.
- ・山口創・吉田康子 (2016) テキストマイニングを用いた農場実習における大学生の学習内容の把握, 環境情報科学論文集 30, pp. 243-248.
- ・山口創 (2016) 教育関係共同利用拠点制度における大学農場の農業実習教育の展開と課題, 農林業問題研究, 52, pp. 205-210.
- ・山口創 (2015) 在来品種の顕在化プロセスと展開課題, 環境情報科学論文集29, pp.83-88.

## ■社会貢献活動

- ・第49.50回JA鳥取県大会審議委員会委員, 新温泉町総合計画審議会アドバイザー, 鳥取県都市計画審議会委員, 市川町笠形地域づくり協議会 ナレッジマネジメント支援





## 研究キーワード

野生動物, 共存, 種内変異, 社会化の過程, 社会性の進化

谷口 晴香

TANIGUCHI, Haruka

講師

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

## Profile

## ■主な担当科目

動物行動学, 保全生物学, 生物学概論

## ■研究者略歴

- |                |                                        |
|----------------|----------------------------------------|
| 2016年（平成28年）3月 | 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻 博士課程修了              |
| 2017年（平成29年）8月 | 琉球大学 国際地域創造学部 ポスドク研究員（～2018年（平成30年）7月） |
| 2020年（令和 2年）4月 | 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 研究機関研究員         |
| 2024年（令和 6年）4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師                    |
| 2025年（令和 7年）4月 | 公立鳥取環境大学大学院 環境経営研究科環境学専攻 講師            |

## Research

## ■取得学位

博士（理学）（京都大学）

## ■専門分野

霊長類学, 動物行動学, 生態人類学

## ■現在の研究テーマ

- ・環境がニホンザルのアカンボウの社会関係の発達に与える影響
- ・環境がニホンザルの育児体系に与える影響
- ・人間活動を含めた環境が野生動物の社会に与える影響

## ■所属学会

日本霊長類学会, 生態人類学会, 屋久島学ソサエティ

## Data

## ■研究等活動

## 【著書】

- ・『フィールドにみえた＜社会性＞のゆらぎ：霊長類学と人類学の出会いから』（共編著），2025年，京都大学学術出版会

## 【論文】

- ・「ニホンザルのアカンボウの集まり：地域間比較の試み」，2025年，『社会性の起原と進化 始論：種と性を越えた比較研究のために』，京都大学学術出版会
- ・「ニホンザル研究セミナーの開催と今後の展開—2022年度と2023年度のアンケート調査から—」（共著），2024年，『霊長類研究』40号
- ・「ヤクシマザルの離乳期のアカンボウの伴食行動：アカンボウの集まりに着目して」，2022年，『生態人類学会ニュースレター』28号
- ・「Wound healing in wild male baboons: Estimating healing time from wound size」（共著），2018年，『PLOS ONE』vol. 13
- ・「How the physical properties of food influence its selection by infant Japanese macaques inhabiting a snow-covered area」，2015年，『American Journal of Primatology』vol. 77
- ・「ニホンザルのアカンボウの集まりについていき，彼らの『普通』を体感する」，2015年，『動物と出会うⅡ：心と社会の生成』，ナカニシヤ出版

## 【報告書・その他】

- ・「フィールドノートを落としたとき：探すか、見捨てるか、それが問題だ」，2025年，『ザ・フィールドワーク：129人のおどろき・とまどい・よろこびから広がる世界』，京都大学学術出版会
- ・「2022年度フィールドネット・ラウンジ企画 フィールドワークってなんだ？：異分野方法論談議（霊長類学・言語学・歴史学・人類学）」，2023年，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，URL：[https://fieldnet-aa.jp/lounge/assets/20230109\\_Fieldnet\\_lounge\\_Report.pdf](https://fieldnet-aa.jp/lounge/assets/20230109_Fieldnet_lounge_Report.pdf)
- ・「野生ニホンザルの離乳期の子育て」，2020年，『ヒトを見るようにサルを見る』，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，URL：[https://sociality.aa-ken.jp/data/wp-content/uploads/2020/11/Report\\_on\\_colloquium\\_2020.pdf](https://sociality.aa-ken.jp/data/wp-content/uploads/2020/11/Report_on_colloquium_2020.pdf)

## ■社会貢献活動

- ・ニホンザル研究セミナーの企画・運営（2022・2023・2025年度）
- ・一般公開セミナーの企画「フィールドワークってなんだ？：異分野方法論談議（霊長類学・言語学・歴史学・人類学）」（2023年1月9日開催）